

# クレハ CSRレポート 2014



**KUREHA**



IPA(インプロビアルアルコール)などの有害物質を含む「浸し水」を使わない水なし印刷を採用し、VOCの発生を大幅に削減しています。



植物油溶剤のインキを使用しています。



適切に管理された森林で生産された木材を原料に含む「FSC®認証紙」を使用しています。



読みやすい、モリサワUD(ユニバーサルデザイン)フォントを本文に使用しています。

お問い合わせ先 **株式会社クレハ** CSRレポート編集連絡会(RC部)

〒103-8552 東京都中央区日本橋浜町3-3-2

TEL:03-3249-4686 FAX:03-3249-4709

<http://www.kureha.co.jp/>

株式会社クレハ

# 「クレハCSRレポート2014」をお読みいただく皆様へ

このレポートは、2013年度のクレハグループのCSR活動内容を、すべてのステークホルダーの皆様にご報告するために作成しています。

CSR活動を推進するための組織体制、社会との共生、環境・安全に関する取り組み、グループ会社の活動について、さまざまな事例やデータをご紹介します。また、当社は化学物質を扱う企業であるため、レスポンシブル・ケア活動報告に関する情報開示にも重点を置いています。

従来のクレハCSRレポートは、社会や環境への取り組みなどの非財務情報を中心とした内容でしたが、2013年版から売上高や営業利益などの財務情報を加えています。また、当社は、2014年6月21日に創立70周年を迎えましたので、2014年版では、クレハの歴史を紹介するコーナーを設けました。また、新たにKureha Vietnam Co., Ltd.の記事を掲載し、グループ会社の活動紹介の充実を図りました。

## 【CSRとは】

CSR(Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任)とは、企業が社会や環境と共存し、持続可能な成長を図るため、その活動の影響について責任をとる企業の自主的な行動です。社会の一員としての企業が持続的に活動するためには、利益の追求のみではなく、適切な企業統治や法令遵守への取り組みによって社会との信頼関係を築くことや、環境保全や保安防災活動を通じた環境との調和を図ることが必要です。また、これらの活動内容をステークホルダーの皆様にご報告することが企業と社会とのコミュニケーションをとるために大切な活動の一つになっています。

## 【レスポンシブル・ケアとは】

化学物質を扱うそれぞれの企業が化学物質の開発から製造、物流、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ての過程において、自主的に「環境・安全・健康」を確保し、活動の成果を公表し、社会との対話・コミュニケーションを行う活動を「レスポンシブル・ケア(Responsible Care)」と呼んでいます。1985年にカナダで誕生した活動で、1995年に、社団法人日本化学工業協会の中に日本レスポンシブル・ケア協議会が設置され、国内での活動が始まりました。

### 対象範囲

#### ■CSR活動

(株)クレハおよび連結グループ会社  
連結対象会社数37社(連結子会社36社、持分法適用会社1社)

#### ■レスポンシブル・ケア活動

- (株)クレハおよびグループ企業13社
- (株)クレハ
  - クレハ エクステック(株)
  - クレハ合繊(株)
  - クレハ運輸(株)
  - クレハ錦建設(株)
  - (株)クレハエンジニアリング
  - (株)クレハ環境
  - (株)クレハ分析センター
  - レジナス化成(株)
  - クレハエクストロン(株)
  - Krehalon Industrie B.V.
  - 上海吳羽化学有限公司
  - Kureha Advanced Materials LLC
  - Kureha Vietnam Co., Ltd.

### 対象期間

報告対象期間は、原則として決算期(2013年4月~2014年3月)ですが、一部、暦年(2013年1月~12月)のもの、2014年4月以降の活動も含まれます。

### 参考にしたガイドライン

- ISO26000
- 環境省「環境報告ガイドライン(2012年版)」
- 環境省「環境会計ガイドライン(2005年版)」

### ウェブサイトのご案内

CSRレポート2014は、当社ホームページから、PDFでダウンロードしていただくことができます。

HOME ⇒ CSRの取り組み ⇒ CSRレポート  
<http://www.kureha.co.jp/csr/report.html>

また、当社ウェブサイトでは、これまで発行した報告書をご覧いただけます。

### 発行

2014年8月(次回は2015年8月発行予定)

### 免責事項

本レポートには(株)クレハおよびグループ会社の過去と現在の事実だけでなく、発行時点における計画や見通しに基づいた将来予測が含まれます。この将来予測は、記述した時点で入手できた情報に基づいた仮定ないし判断であり、諸与件の変化によって予測とは異なったものとなる可能性があります。また、記載の表やグラフの数値は対象範囲の変化や算出方法の見直しによって、一部過年度データを修正している項目があります。読者の皆様には以上をご了解いただきますようお願いいたします。



本レポートは日本化学工業協会レスポンシブル・ケア委員会のレスポンシブル・ケア・コードに準拠しています。

### クレハCSRレポートに関するお問い合わせ先

株式会社クレハ RC部 CSRレポート編集連絡会 〒103-8552 東京都中央区日本橋浜町3-3-2 TEL:03-3249-4686 FAX:03-3249-4709

## レスポンシブル・ケア実施宣言

当社および当社グループ各社は、地球環境の保全、人の安全と健康の確保は企業活動の根幹と考え、企業の社会的責任であるとの認識の下に、レスポンシブル・ケアの実施を宣言します。当社および当社のグループ各社は、次の「レスポンシブル・ケア方針」の下に、実施計画を策定し実行していきます。

この方針は、当社および当社のグループ各社の全てに共通に適用されるものです。

1995年4月20日  
2002年7月1日……一部改訂  
2005年10月1日……一部改訂

株式会社クレハ

## レスポンシブル・ケア方針

### ●国際規則や法令を守ります

私達は、保安防災、労働安全衛生、製品安全および地域生活環境を含む全地球的な環境の保全について、国際規則や国内の法令を守るとともに、日本化学工業協会が推進するレスポンシブル・ケア活動に積極的に参画します。

### ●地球環境に配慮し、安全な操業をします

私達は、事業活動において地球環境の保全に配慮し、操業においては従業員や市民の安全と健康を守り、事故、災害、公害を起こさないよう努力します。

### ●安全な製品を社会に提供します

私達は、社会の要求を素早く的確に把握し、製品作りに生かし、お客様が安心して使用でき、信頼していただける製品とサービスを提供していきます。

また、私達は、製品の研究・開発から生産・販売を経て廃棄に至るまでの全ライフサイクルにわたり、安全性、信頼性、環境への影響について配慮した製品とサービスを社会に提供します。

### ●環境・安全の情報を管理し、役立てます

私達は、製品の正しい取り扱いや処理方法、環境、保安、防災に関する適切な情報を集中管理し、消費者、ユーザーおよび製品納入に関連する企業等に提供します。

### ●社会とのより良い関係を築きます

私達は、行政当局や市民の関心に留意し、環境・安全情報を提供して社会に対して正確な広報活動を行い、また、市民社会の活動へも市民として積極的に参加し、社会とのより良い関係の維持と構築に努めます。

# クレハCSRレポート2014

## CONTENTS

■ トップ・メッセージ	3
■ 企業理念体系	4
■ クレハグループの概要	5
■ 特集1 会社創立70周年	6
■ 技術の歴史をみよ、クレハストーリー	
■ コーポレート・ガバナンス	7
■ ガバナンス体制/内部統制システム	
■ コンプライアンス	8
■ コンプライアンスの実践	
■ 情報管理/リスク管理	9
■ 基幹業務システムの災害対策環境構築/標的型サイバー攻撃対策とセキュリティ診断/社内ネットワークパソコンの更新/最新ICTの活用/リスク・マネジメント/事業継続計画(BCP)	
■ 株主・投資家に対する取り組み	10
■ 情報開示の考え方/株主とのコミュニケーション/投資家・アナリストとのコミュニケーション	
■ お客様に対する取り組み	11
■ 商品を通じたお客様への社会貢献	
■ 取引先に対する取り組み	12
■ 購買基本方針	
■ 従業員に対する取り組み	13
■ 社員へのコミットメント/人事制度/教育制度/働きやすい環境づくり	
■ 地域社会とのコミュニケーションに対する取り組み	14
■ リスクコミュニケーション/地域との共生	
■ 社会貢献に対する取り組み	16
■ いっしょに笑顔	17
■ 特集2 東日本応援プロジェクト	
■ レスポンシブル・ケア(RC)活動の概要	18
■ RC実施宣言/RC取り組み体制/RCマネジメントシステム/RC活動の総括表	
■ 環境会計	20
■ 環境会計/環境保全対策投資	
■ 環境負荷の低減に対する取り組み	21
■ 環境負荷の全体像/地球温暖化防止/大気汚染防止/化学物質排出把握管理促進法(PRTR制度)/水質汚濁防止/産業廃棄物の排出量削減とリサイクル/容器包装リサイクル法	
■ 保安防災に対する取り組み	27
■ 保安防災	
■ 労働安全衛生に対する取り組み	29
■ 労働安全衛生/技能研修センター/保安防災・労働安全衛生対策投資	
■ 製品安全・品質保証に対する取り組み	31
■ 品質方針/製品安全・品質保証/安全性研究・評価センター	
■ 物流の環境負荷低減および物流安全に対する取り組み	32
■ 物流段階での環境負荷低減/物流事故対策	
■ グループ会社での取り組み	33
■ グループ会社13社(国内9社、海外4社)	
■ グループ会社のパフォーマンスデータ	40
■ グループ会社13社(国内9社、海外4社)	

# 情熱とスピードで、これからもみなさまに信頼される “エクセレント・カンパニー”を目指してまいります。

代表取締役社長

小林 豊



当社は1944年に呉羽紡績から分離独立し、2014年6月21日に創立70周年を迎えました。当社の株主、顧客、取引先、地域社会、従業員、その他のステークホルダーの皆様を支えられながら事業を続けてこられたことに深くお礼申し上げます。

## 当社を取り巻く環境

2013年度のわが国経済は、各種経済政策の効果、円安による輸出持ち直しおよび個人消費拡大から緩やかな景気回復となりました。

当社グループにおいては炭素製品が太陽電池向け関連部材市場で需要低迷が続いたものの、円安進行、農業需要の高まりによるアグロ製品の堅調な出荷、消費税率引き上げ前の駆け込み需要による家庭用品の出荷増に加え、一層の経費削減に取り組んだことにより、営業利益は前期比増加となりました。

今後、世界経済は緩やかな成長を持続し、またわが国経済についても駆け込み需要の反動に国内需要が一時的に落ち込むことが想定されるものの、経済対策の効果、円安および外需の下支えにより、プラス成長の維持が見込まれます。

このような中、当社グループは、今後も「中期経営計画 GROW GLOBALLY-II」に掲げた「競争優位にある既存事業の強みをさらに伸ばしながら、新規事業を育成・拡大すること」、「増産および新規投資によるグローバルな成長と投資回収を図ること」に注力し、企業価値向上を図ってまいります。

## CSR(企業の社会的責任)

企業は利益を生まなければ、雇用も守れず、ステークホルダーや社会に対しても貢献できません。しかし、継続して利益を出し続けることは社会的な責任の一面にすぎません。私は、企業の価値は「社会的存在」であり、「人類の幸せに貢献していくこと」だと捉えています。そのために当社は「クレハ独自の技術を活かしたモノづくり」「地域社会への貢献(環境にやさしい、雇用を生み出すなど)」「社会の模範となる人財の輩出」に積極的に取り組んでいくことが必要です。

化学企業として、社会が必要とする製品を作り続けることは「社会的責任」を果たすことになります。当社の医薬品は「人の健康」に、農業、業務用食品包装材、家庭用品などは「食糧資源の生産性向上および有効活用」に、PGA(ポリグリコール酸)や機能樹脂、炭素製品、電池材料などは「エネルギーの適切な利用や省エネ」に役立っています。また、当社グループ会社が運営している環境事業や地域診療などは地域の方に役立てられ、社会に貢献しています。

一方、地域社会の企業として、障がい者雇用は大切な社会の課題と認識しており、これまでも障がい者雇用には積極的に取り組んできました。さらに取り組みを強化するため、2014年6月に、福島県いわき市に、障がい者の社会参加および自立支援を目的とした新会社「さんしゃいんクレハ」を設立いたしました。

当社は企業理念に「人と自然を大切にします」を最初に掲げ、実践しています。今後も引き続き「人」と「環境」の課題に責任を持ち、真摯に対応していきます。

## 情熱とスピード

当社は、創立以来、70年の間に幾度も厳しい局面に立たされたことがありましたが、その都度、英知を結集して、経営層と従業員が一致団結して乗り越えてきました。これからも、当社は、全社一丸となって、われわれ一人一人がクレハの将来を築いていくという認識を持ち、行動を起こしていきます。

創立100年さらにその先に向かって、スペシャリティ分野で光り輝く会社を目指し、時代を先取りした技術の開発、事業展開を進めていきます。お取引先から最初に相談される企業を目指していきます。そのためにも、すべての課題に対して情熱とスピードをもって、挑戦、実行していく所存です。

今後とも、皆様のご理解、ご支援を賜ることができますよう、お願い申し上げます。

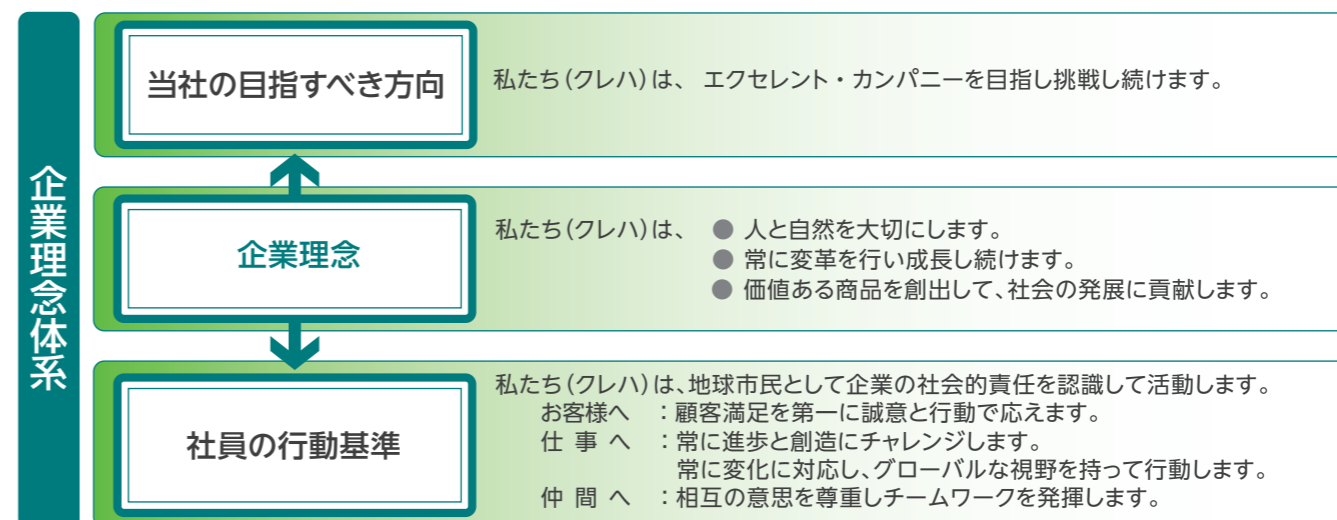
2014年8月

### 共生社会の実現に向けて 「株式会社さんしゃいんクレハ」

創立70周年を迎える本年、障がい者の社会参加および自立支援を目的とする「さんしゃいんクレハ」を設立しました。

#### <企業理念>

「自らの努力と意欲で障がい乗り越えることで、高い品質のサービス、商品を提供し、社会とクレハグループの発展に貢献します」  
「一人ひとりが将来の夢を抱くとともに、働くことの楽しさを実感し、仕事を通じて成長、自活することを目指します」



クレハグループは、機能製品、化学製品、樹脂製品の製造・販売を主な事業内容とし、さらに各事業に関連する設備の建設・補修、物流、環境対策およびその他のサービス等の事業活動を行っています。当社の製品は、電気・電子分野、自動車の素材等として使用される機能樹脂から、家庭で使用される家庭用ラップ、また抗悪性腫瘍剤、慢性腎不全用剤といった医薬品まで、幅広く人々の生活に関わっています。

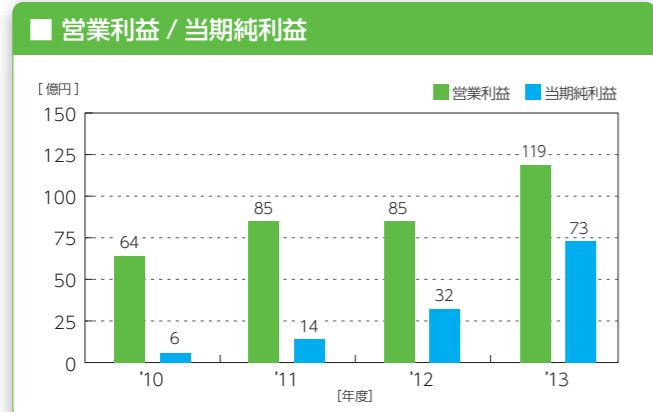
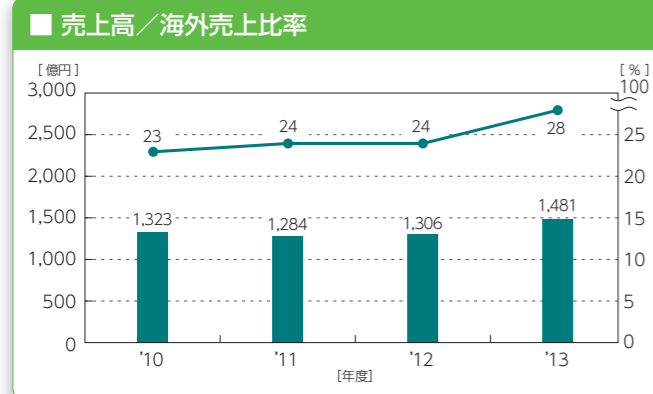
## ●会社概要(2014年3月31日現在)

会社名	株式会社クレハ
創立	1944年(昭和19年)6月
本社所在地	東京都中央区日本橋浜町3-3-2
代表取締役社長	小林 豊
資本金	124億6千万円
売上高	1,481億円(連結) 824億円(単独) (2013年度)
主要事業	機能樹脂/炭素製品/電池材料/工業薬品/医薬品/農業/食品包装材/家庭用品/建設/環境/物流
従業員	4,080名(グループ) 1,715名(単独)
ホームページ	http://www.kureha.co.jp/

## ●営業所等/事業所/研究所等(2014年4月1日現在)

営業所等	本社別館(東京都新宿区)/大阪営業所/仙台営業所/名古屋営業所/福岡営業所
事業所	いわき事業所(福島県いわき市) 樹脂加工事業所(茨城県小美玉市および兵庫県丹波市)
研究所等	総合研究所/農業研究所/新材料研究所/先進研究所(福島県いわき市)/包材技術センター(茨城県小美玉市)

## ●財務情報(連結)



## ●事業概要

### 【機能製品事業】

#### ●高機能材事業

パソコンや携帯電話、自動車の部品に使われる高機能樹脂、高温熱処理炉用の炭素繊維製断熱材や、浄水施設などで使用される球状活性炭などの炭素製品、リチウムイオン二次電池の構成材料である負極材とバインダーを取り扱っています。

#### ●PGA事業

世界で初めてPGA(ポリグリコール酸)樹脂の工業化に成功。その生分解性、高強度、優れたガスバリア性を生かした用途開発が世界中で進んでいます。

### 【化学製品事業】

#### ●化学品事業

環境を守りながら農業生産を高める農業の研究開発や、素材産業の源でありクレハ全体の基盤となる工業薬品を取り扱っています。

#### ●医薬品事業

副作用の少ない薬剤の開発など、人々の健やかな生活を力強くバックアップする新時代の医薬品を創り出しています。

### 【樹脂製品事業】

#### ●クレハロン事業

ケチャップやマヨネーズなどのソフトボトル、ハムやソーセージのパッケージなど、食品の多様な包装技術に取り組んでいます。

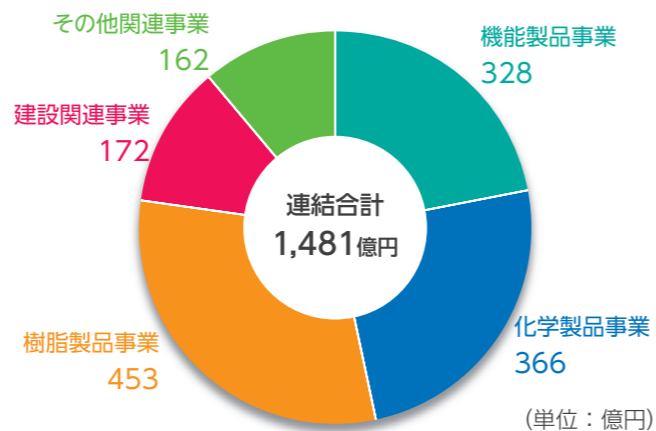
#### ●家庭用品事業

家庭用ラップフィルム<NEWクレラップ>やキッチンまわりを楽しく便利にする<キッチンさん>シリーズなど、日常の暮らしをサポートする製品の開発に取り組んでいます。

## ●グループ会社(2014年3月31日現在)

連結子会社36社

## ■セグメント別売上高(2013年度)



会社創立70周年。技術の歴史をみ、クレハストーリー。

# 独自技術の歴史こそクレハの誇りです

私たちクレハは、独創的な製品を数多く創り出してきた技術開発型企業です。

“BROAD BASE, BUT SPECIALTY”(視野は広く、専門性は高く)という精神を背景にさまざまな分野にわたる製品を開発してきました。中でも私たちが誇りとしているのは、外部技術の導入に頼らず、独自の発想で製品を開発し事業を拡大してきたことです。

“将来を見据えた企業家として、常に新たな技術へ挑戦する”、次代を担う製品を生むポテンシャルの高い企業風土を培いながら、クレハの独自技術の歴史を綴ってきました。

**1944年**  
呉羽紡績(株)より分離独立  
**呉羽化学工業(株)創立**

呉羽紡績(株)の化学部門を分離独立し、呉羽化学工業(株)が設立されました。取扱製品は、肥料やか性ソーダ、合成塩酸などの無機薬品でした。同年に、診療所(現 呉羽総合病院)と錦工場附属保育園(現 いわき市立錦幼稚園)を設立しました。

**1970年代**  
独自性の高い製品開発強化  
**スペシャリティ事業へ方針転換**

石油危機により、経済・社会環境が激変し、高付加価値製品事業の体制を拡充しました。活性炭、ふっ化ビニリデン樹脂の生産開始、釣り糸、抗悪性腫瘍剤の販売を開始しました。呉羽梱包(株)(現 株)クレハ環境)を設立し、産業廃棄物処分事業を始めました。

**1990年代**  
エネルギー・環境分野への展開  
**新製品、新技術で事業再構築**

エネルギー・環境分野への展開を図り、リチウムイオン二次電池用負極材やバインダーの販売を開始しました。また、慢性腎不全用剤や農業用殺菌剤の販売を開始しました。レスポンスシムルケア実施宣言をしました(1995年)。

**1950~60年代**  
塩素の高度利用による事業展開  
**塩素系樹脂、フィルムの発売**

か性ソーダと併産される塩素の高度利用に取り組み、塩化ビニリデン樹脂や塩化ビニル樹脂の製造を開始しました。塩化ビニリデン樹脂を原料とした家庭用ラップや食品包装用フィルム、自動充填結紮機の販売を開始しました。

**1980年代**  
高付加価値事業推進  
**スペシャリティ事業で業容拡大**

高度な技術や知識に裏付けされた高付加価値製品の開発を推進しました。PPS樹脂の生産を開始しました。クレラップをリニューアルした<NEWクレラップ>の販売を開始しました。呉羽総合ブランド(現 クレハ総合ブランド)を開設しました。

**2000年~**  
グローバル展開の推進・加速  
**(株)クレハに社名変更**

株式会社クレハに社名変更し、企業理念体系を成文化しました。生分解性樹脂であるポリグリコール酸の商業生産を開始しました。レスポンスシムルケア報告書(現 CSRレポート)の発行や東北初の「RC地域説明会」を行いました。

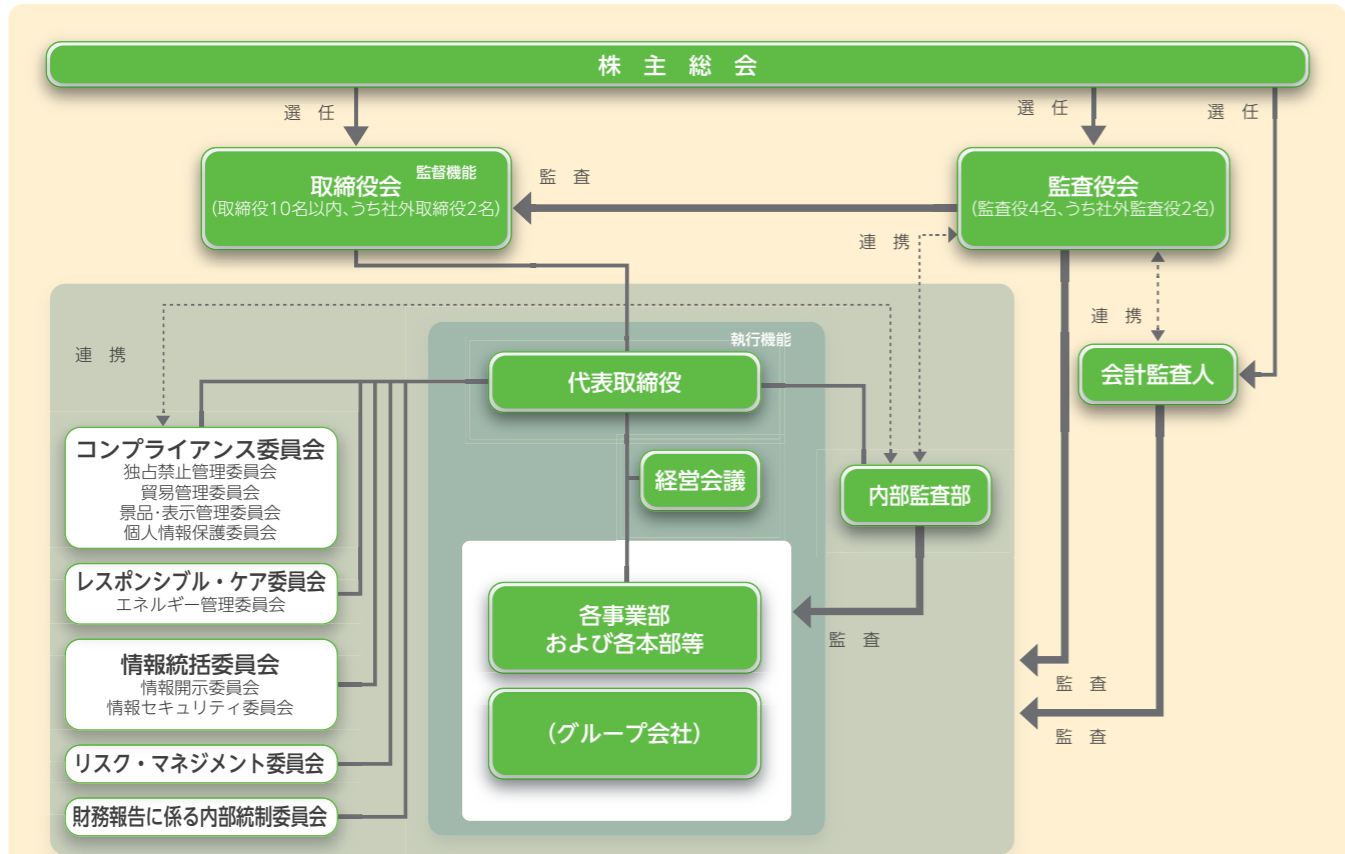
**沿革 ~クレハ70年の歩み~**

- 1944年 呉羽紡績(株)より分離独立
- 1953年 塩化ビニリデン樹脂(クレハロン)の生産開始
- 1960年 (クレラップ)販売開始
- 1969年 世界初の原油分解技術の開発に成功 炭素繊維(クレカ)生産開始
- 1970年 ふっ化ビニリデン樹脂の生産開始
- 1977年 抗悪性腫瘍剤(クレステン)販売開始
- 1987年 PPS(ポリフェニレンサルファイド)生産開始
- 1989年 (NEWクレラップ)販売開始
- 1991年 慢性腎不全用剤(クレメジン)を発売
- 1993年 農業用殺菌剤(メトコナゾール)(イブコナゾール)、リチウムイオン二次電池用負極材(カーボトロンP)、電極用バインダー(KFポリマー)販売開始
- 1995年 慢性腎不全用剤(クレメジン)を発売
- 2000年 (クレメジン)細粒剤販売開始
- 2005年 呉羽化学工業株式会社から、株式会社クレハに社名変更
- 2012年 PGA(ポリグリコール酸)米田プラント商業運転開始

当社は、経営の透明性を高めステークホルダーとの信頼関係を確保するとともに、企業としての持続的な成長を図るため、コーポレート・ガバナンスの充実に努めています。

### ガバナンス体制

当社は、コーポレート・ガバナンスの強化および当社グループの経営における意思決定や業務執行の迅速化を図るため、経営における監督責任と執行責任を明確にしています。



#### 【各組織の役割の説明】

・取締役会は、経営陣から独立している社外取締役2名を含む10名以内の取締役で構成しています。取締役会では重要な経営事項の決定と業務執行の監督を行っています。  
 ・経営会議は、代表取締役社長および代表取締役社長が指名する執行役員で構成しています。経営会議では中長期経営戦略および基本方針等について審議しています。また、連結経営会議では、当社グループの基本的な運営方針等の意見交換を行い、連結経営の強化を図っています。

・監査役会は、社外監査役2名を含む4名の監査役で構成しています。監査役は、取締役会およびその他の重要な会議に出席し決議事項や報告事項の審議過程を把握できる体制をとるとともに、業務執行に対する監査を行っています。また、監査役は、会計監査人および内部監査部との間で監査計画や監査状況について意見交換を行うなど、相互に連携を図っています。  
 ・代表取締役社長直轄の内部監査部は、会社の内部管理体制等の適切性や有効性を評価検証し、改善の指摘等を行うことにより、経営効率および社会的信頼度の向上に寄与する体制をとっています。

### 内部統制システム

内部統制システムの基本方針を制定し、当社グループが業務遂行にあたり、法令を遵守し、業務を適正に遂行する体制を確保するよう、各種委員会の設置や社内規程の整備を進めています。「財務報告に係る内部統制」に関しても「基本規程」を制定し、

金融商品取引法に定められた「財務報告に係る内部統制の有効性に関する経営者による評価および公認会計士等による監査」を実施し、財務報告の信頼性の確保を図り、経営者(代表取締役)の責任の下、「内部統制報告書」を作成しています。

### コンプライアンスの実践

当社はコンプライアンス体制として、「クレハグループ倫理憲章」および「コンプライアンス規程」を定め、コンプライアンス重視の企業風土を徹底すべく、体制のより一層の強化を図っています。

代表取締役を委員長とするコンプライアンス委員会は、当社のコンプライアンス体制の解説とコンプライアンス行動基準を掲載した「コンプライアンス・ハンドブック」をもとに研修等を実施し、コンプライアンスの周知徹底を図っています。また、法令等に反する行為を早期に発見するために、社内および社外(弁護士)にコンプライアンス相談・通報窓口を設置し、法令および社会的規範の遵守に努めています。

社長直轄の内部監査部は、内部監査においてコンプライアンスを含む内部管理態勢等の適切性や有効性を評価検証しています。

- コンプライアンス規程
- コンプライアンス委員会
- 相談窓口(ホットライン)
- 確認・検証



### 2013年度 コンプライアンス教育・啓蒙のための取り組み

- 新規採用従業員・幹部社員昇進者等を対象とする当社の取り組みに関する講習・説明およびインターネットを利用した教育(eラーニング)実施
- コンプライアンス従業員意識調査を、国内グループ会社を含めて一斉に実施
- 当社中堅管理職層(課長、グループリーダー等)を対象とする新教育コースの全社展開
- コンプライアンス・ハンドブックとコンプライアンス行動基準解説書の改訂



### クレハグループ倫理憲章

私達は、次の8原則に基づき、国内外の法律、社会的規範およびその精神を遵守するとともに社会的良識をもって行動します。

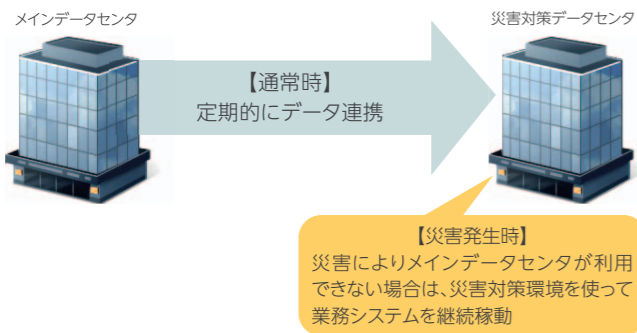
経営トップは、この「倫理憲章」の精神の実現が自らの役割であると認識し、その周知徹底を行うとともに、これに反する事態が発生したときは、自ら問題解決、原因究明、再発防止に努め、社会への適時、適切な情報公開を行い、自らも含めて厳正な処置を行います。また、社員一人一人は日常の生活において自主的、積極的にこれらの精神を実現します。

1. 私達は、社会のニーズに応える社会的に有用で安全な製品、サービスを開発・提供します。
2. 私達は、地球環境の保護、人の安全と健康の確保に自主的かつ積極的に取り組みます。
3. 私達は、広く社会との対話を大切にし、正確で有用な企業情報を適時、適切に提供します。
4. 私達は、地域社会を尊重し、その発展に積極的に貢献します。
5. 私達は、競争法規を遵守し、公正で自由な競争を行います。
6. 私達は、政治、行政と透明で健全な関係を保ちます。
7. 私達は、社会的良識を備えた善良な企業市民(コーポレート・シチズン)として行動します。
8. 私達は、一人一人が互いの人格、個性を尊重し、ゆとりと豊かさを実現できる企業をつくりまします。

### 基幹業務システムの災害対策環境構築

災害発生時にも事業を継続するためには、基幹業務システムの稼働は不可欠です。2014年5月の基幹業務システムのサーバ更新に合わせて以下の施策を実施しました。

- ①津波等のリスクを考慮し内陸部にあるデータセンタに変更
- ②事業継続強化として西日本エリアのデータセンタに基幹業務システムの災害対策環境を構築



### 標的型サイバー攻撃対策とセキュリティ診断

標的型サイバー攻撃対策として設置している監視機器により不正な動きを常時監視しており、外部からの不正侵入などの問題は発生していません。また、定期的実施しているセキュリティベンダーによる診断報告においても、高いセキュリティレベルが保たれていると評価を受けています。

2013年度には「現行対策の評価」と「今後の計画策定」のためにセキュリティコンサルタントによる診断を受けました。診断結果に基づく更なる強化対策を2014年度に実施します。

### 社内ネットワークパソコンの更新

マイクロソフト社のWindowsXPサポート終了を受けて、グループ会社を含めた全てのネットワークパソコンを2014年3月末までにWindows7へ切り替え完了しました。

### 最新ICTの活用

最新デバイスによる情報活用を目的に社内の携帯電話をスマートフォンに更新しました。またスマートフォンやタブレット端末からの情報活用に向けて、社内情報にアクセスできる仕組みを見直しました。2014年度も継続的に取り組んでいきます。

### リスク・マネジメント

クレハは、「内部統制システムの基本方針」に基づき、事業活動に伴い発生するリスクを分類し、リスク・マネジメント委員会、レスポンシブル・ケア委員会、情報統括委員会の各委員会がリスク管理を行う体制をとっています。各委員会は当該リスクを認識し、回避、軽減を図るための具体的な対策について社長に提言し、職制を通じて実行しています。

今後も事業環境の変化に迅速に対応し、リスク管理体制の強化を図るとともに、中長期のリスクを回避、軽減すべく対策を実行してまいります。

### 事業継続計画(BCP)

当社は、東日本大震災発生後に顕在化したリスク課題を洗い出し、大規模災害に備えた対策を整備・強化し、事業継続計画(BCP)を策定いたしました。

BCPの目的である、従業員等の生命・安全の確保、顧客サービスの継続による信頼性の確保、経済的被害の最小化を達成するため、本社および各事業所において大規模災害が発生した場合の初動対応と組織体制を明確化し、製品供給、顧客サービスを早期に復旧し、優先すべき重要業務を継続するための戦略、対応策を、購買、営業、製造、管理、物流等の部門毎の行動計画書として明文化しました。

今後ともBCPに基づき非常事態に迅速な対応が取れるように教育・訓練による定着化と計画内容の拡充を図ってまいります。



事業継続計画(BCP)計画書

### 情報開示の考え方

当社は、「情報開示基本方針」に基づき、社会から信頼され支持される企業を目指し情報開示を行うことを基本におき、関係法令や証券取引所の定める「適時開示規則」等に則って、適時・適切に情報開示を行います。また、法令・規則等によらずステークホルダーに有用な情報と判断した場合においても、適時・適切に情報開示を行います。

公平かつ継続的に情報を開示していくことが、経営の透明性とステークホルダーからの信頼を高めることにつながるものと考えています。

### 株主とのコミュニケーション

当社は、定時株主総会を毎年6月下旬に開催しています。招集通知の発送を6月初旬に行い、株主の皆様の議案の検討に必要な時間を確保しています。議決権行使にあたっては、インターネットによる行使の選択も可能としています。

株主総会では、映像の活用といった工夫をするとともに、ご質問に対しては率直かつ丁寧な説明に努めています。株主総会終了後、株主の皆様とのコミュニケーションが図れる懇談の場を設けています。

また、半期に一度、当社の決算概要やトピックスなどをまとめた「クレハレポート」を株主の皆様にお届けし、当社現況への理解促進を図っています。



クレハレポート

当社ホームページ 株主・投資家向け情報サイト

### 投資家・アナリストとのコミュニケーション

機関投資家や証券アナリストを対象として、中期的な経営戦略や決算に関する説明会を定期的に開催しています。中期経営計画に基づく成長シナリオ、決算や将来の見通しなどについて説明するとともに、投資家からの質問に答えています。

さらに理解を深めていただくために、国内外の投資家との個別取材に対応するなど、積極的な対話に取り組んでいます。

また、株主や投資家の皆様の情報入手と理解をサポートできるように、当社ウェブサイトのコンテンツの充実を図るとともに、サイト内にメールによる「IRお問い合わせ」窓口も設置しています。



決算説明会の様子

### 担当者の声

広報・IR部 松元 香



### 「信頼される『世界のクレハ』を目指して」

当社が事業のグローバル展開を進めるなか、今や国内のみならず海外の投資家を含めたさまざまなステークホルダーとのコミュニケーションが重要になってきています。当社のことを十分かつ正しくご理解いただき、信頼される「世界のクレハ」となるよう、これからも積極的に情報を発信し、双方向のコミュニケーションを実現していきます。

お客様相談室では、お客様から寄せられるNEWクレラップとキチントさんに対するクレーム、お問い合わせ、ご要望に対応しています。中でもクレームについては、全社の品質管理システムに則り、品質保証部門、製造部門、開発部門と協力して原因を究明し、再発防止を図っています。お客様からのお申し出は電話での受け付けが大部分になりますが、電話だけではお伝えにくい商品の使い方等は、パンフレットおよびホームページ上で動画やイラストによる説明をご覧いただけるようにしています。

これまでクレームを集計した情報は企画部門や開発部門と共有し、既存商品の改良や新商品の開発に活かしてきましたが、もっとお客様の生の声を活用していくために、お客様相談室で受け付けた内容を社内の関連部門と共有できるシステム「お客様の声ワークフロー」の運用を2014年2月より開始しました。

家庭用品事業部では「組織における苦情対策の指針 ISO10002/JIS Q10002」に適合する活動を行う旨の自己宣言をしています。今後とも、お客様満足の上を目指し、お客様対応プロセスの継続的な改善に努めてまいります。



CMオーディション 2014年6月30日応募締切



商品を通じたお客様への社会貢献

■ ピンクリボン活動の支援

2009年より「乳がんをなくす ほほえみ基金」にNEWクレラップとキチントさんシリーズの売上の一部を寄付しています。

「乳がんをなくす ほほえみ基金」は、公益財団法人日本対がん協会が、2003年4月に乳がん征圧のために設けた基金です。

同基金は、乳がん検診機器の整備に加えて、患者・治療者のグループの活動支援、広報活動、がん相談、検診技術者の研修など、乳がん征圧に向けて幅広く使われています。



■ ベルマーク運動への協賛

1996年より公益財団法人ベルマーク教育助成財団を通じ、NEWクレラップの6アイテムでベルマーク運動に協賛しています。

ベルマーク運動は、「すべての子どもに等しく、豊かな環境のなかで教育を受けさせたい」との願いをこめて1960年に始まりました。

PTAのボランティアなどでベルマークを収集し、生み出された資金(ベルマーク預金)を使い学校の設備や教材を購入します。

また、国内外のハンディを背負いながら学んでいる子どもたちへも援助の手を差し伸べています。

さらに、2011年からは東日本大震災で被災した教育施設や子供たちへの支援活動も活発に行っています。



担当者の声



お客様相談室長 増田 泰男

「お客様の気持ちに寄り添いながら迅速をモットーに」

せっかくクレハ商品をお買い上げいただいたのに、使っている間に不具合が起こり、ご満足いただけないお客様がいらっしゃることは本当に残念なことです。私たちお客様相談室では、そのようなお客様の気持ちに寄り添いながら、お客様の声を真摯に受け止め、公平、公正な対応を迅速に行うよう心掛けています。

当社は購買基本方針と調達基準に基づいてCSR活動に取り組んでいます。

購買基本方針

当社購買部門はCSRの取り組みの一環として以下の方針に基づいて購買業務を遂行します。

購買基本方針

1. 取引先の選定に際しては、品質、価格、供給安定性、アフターサービス、技術力を総合的に判断し、公正に経済合理性に基づいて行います
2. 取引先の選定にあたり、既存の取引先や過去の実績にとらわれず、広く窓口を開放します
3. 購買取引において、関連する法令を遵守します
4. 取引先と対等で公正な協力関係を築き、相互の理解と信頼関係の向上を目指します
5. 取引先と連携し購買品の品質の維持・向上に努めます
6. 環境保護に配慮した購買活動を行います

調達基準

当社は以下の基準を満たす取引先との連携により、CSRへの取り組みをサプライチェーン全体で推進し、企業価値向上を目指します。

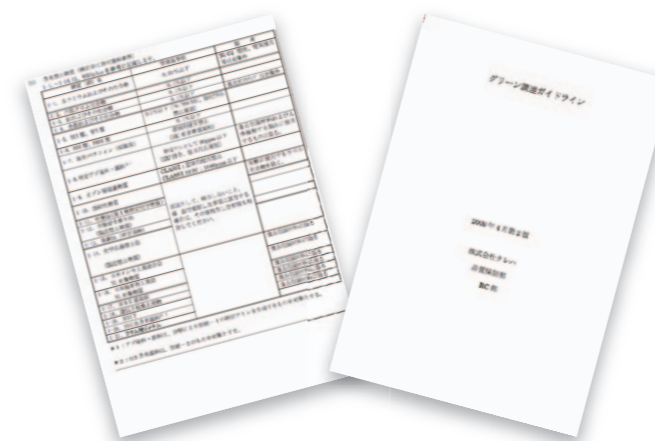
- 1 人権・労働
  - 基本的人権を尊重する
  - 従業員の処遇・雇用等で、不当な差別を行わない
- 2 安全衛生
  - 危険・有害要因を特定し、適切な対策を取る
  - 緊急時の対応策を策定し、周知徹底を図る
- 3 環境
  - 環境負荷の少ない原材料・部品の使用に努める
  - 指定された化学物質の適切な管理を行う
  - 産業廃棄物の処理を適切に行う
- 4 公正取引
  - 不適切な利益の供与や受領を行わない
  - 優位的地位を濫用し、不利益を与える行為をしない
  - 製品・サービス・取引方法に関する正確な情報を提供する
  - 事業活動に適用される法令・社会規範・社内規程を遵守する
- 5 品質・安全性
  - 品質マネジメントシステムを構築し、運用する
- 6 情報セキュリティ
  - 機密情報や個人情報を適切に管理する
- 7 社会貢献
  - 国際社会・地域社会の発展に貢献できる活動を行う

2013年度 主な取り組み

当社は、環境保全活動を重要な課題の一つとして位置付け、レスポンシブル・ケア活動に取り組んでいます。グリーン調達という観点にたち、より安全で環境負荷の低い製品・原材料の使用を進めるため、当社の定める「グリーン調達ガイドライン」に基づき、原材料の調達を行っています。

また、国内外取引先を訪問監査しCSR活動状況を確認しより一層の推進を図りました。

コンゴ民主共和国およびその周辺国の非人道的武装勢力に関わる紛争鉱物(金、タンタル、タングステン、錫)に対し、当社および当社グループ各社は、コンゴ紛争鉱物問題を人権に関わる重要な課題と認識し、これらの紛争鉱物およびこれらの鉱物を含む原料を使用しないことを方針としました。



グリーン調達ガイドライン

社員へのコミットメント

「企業理念」の実現のために、「社員の行動基準」に基づいて、会社から社員に対する約束を「社員へのコミットメント」として成文化しています。

下記は、会社から社員への「コミットメント」であると同時に、自分自身が会社の一翼を担うという自覚の下に責任ある行動をとる、という社員一人ひとりが自分自身に対して行う「コミットメント」でもあります。

社員へのコミットメント

1. 社員の先頭に立って行動します。
2. 変革を恐れず新しい可能性に取り組みます。
3. 社員一人一人を尊重します。  
そのためには：
  - ・情報の共有化を図り、経営方針を明確に打ち出します。
  - ・公正で透明性のある評価を実施します。
  - ・個人の能力を最大限に発揮する機会を提供します。

人事制度

「経営目標の早期達成のための人財開発と企業風土の変革」の基本目標の下に、役割と責任を明確にした人事制度を導入しています。

この制度に基づき、上司との面談を通じて、従業員各人の役割・目標および能力開発ポイントを明示することで、人財開発・人財活用を効果的に行っています。

教育制度

当社は職務を通じたOJT(On the Job Training)による社員教育に加え、新入社員研修、役割・職務別の研修、語学研修、海外留学制度、各種講習会への派遣等を行い人財の育成に努めています。2014年度からはグローバル人財育成のための教育を拡充し、ビジネスに通用する語学の修得およびビジネススキル経験・リーダーシップの修得に向けたプログラムを進めています。

留学体験者の声



医薬品事業部  
吸着医薬技術センター  
吸着薬理研究室  
小長井 文乃

「異なる価値観を互いに理解しあう重要性を痛感」

ドイツのミュンヘン近郊にあるマックスプランク研究所へ留学し、タンパク質の代謝異常に関する研究を行いました。目の前の事に囚われず、ある分野において根幹となる研究テーマを選択し、長期にわたって粘り強く継続することが新たな現象の解明につながることを実感しました。また、自分の考えを主張すると共にディスカッションを繰り返すことは、研究において方向性を見出す上で重要であるだけでなく、異なるバックグラウンドを持つ人が集まり自分の常識や価値観が通じない環境の中で、お互いを理解し良い関係性を築く上で不可欠であることを痛感しました。今後、研究に対する姿勢や海外での体験を研究活動に役立てたいと思います。



新入社員協歩研修



キャリアセミナー

働きやすい環境づくり

仕事と家庭の両立を支援するため従業員の育児や介護に関する制度を整備しています。具体的には、育児・介護をしながら働く従業員を対象とした、休業および短時間勤務制度等があります。

また、2013年度は、最近の従業員を取り巻く労働環境の変化を受けて、メンタルヘルスケア施策の拡充を図りました。

今後も働きやすい労働環境づくりを目指した継続的な取り組みを行っていきます。

「地域との共生」をテーマに、従業員および地域の方々と互いに良好なコミュニケーションを保ちながら、その基盤の上において地域社会の発展に貢献できるよう取り組んでいます。

2013年度も、「地域の皆様とのふれあいを大切に」をモットーに、CSR地域対話集会やオールクレハスポーツフェスティバルなどに新たな企画を加え、さまざまな活動を行いました。

リスクコミュニケーション

第11回CSR地域対話集会

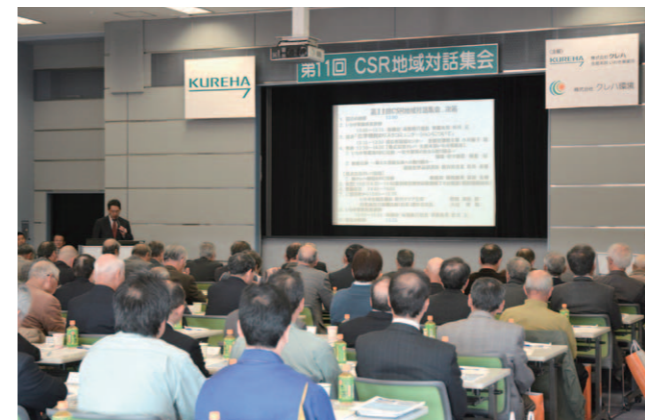
2013年11月20日に行政機関、地域団体、地区役員、近隣企業の方々、クレハグループ関係者を含め総勢126名の参加をいただき、第11回CSR地域対話集会を開催いたしました。

今回は、『より安全な事業所をめざして』というコンセプトを掲げ、当社いわき事業所から「いわき事業所のRC活動～安全確保の更なる取り組み～」、「技能伝承～新たな技能伝承への取り組み～」について、また、クレハ環境から「クレハ環境のRC活動」について紹介いたしました。

また、福島県環境センター企画管理課より「化学物質のリスクコミュニケーション」と題し、ご講話をいただきました。

さらに、地域の皆様からの貴重なご意見やご質問をいただき、充実した会となりました。

今後も、地域との共生を維持するとともに、社会から一層の信用を得られるようCSR活動の取り組みを強化することを約束しました。



第11回CSR地域対話集会(2013年11月20日)

地域との共生

双方向のコミュニケーション紙「にしき」の発行

いわき事業所から地域の方々への環境や安全に関わる取り組み等の情報、および地域の方々の意見・要望などを相互に紹介するため、双方向のコミュニケーション紙「にしき」を発行しています。

第33号では、当社が自社廃棄物処分場跡地を整備して作ったグラウンド「大高ふれあい広場」の活用状況といわき事業所の総合排水設備、第34号では、「夏祭り」と題して当社が参加している地域のお祭りの様子と保安防災に対する取り組み、第35号では、「第11回CSR地域対話集会」と「2013年度 総合防災訓練」の実施内容を掲載いたしました。



第34号「にしき」

清掃ボランティア

いわき事業所では、排水を放出している「蛭田川」の堤防美化活動を6月に行いました。また、「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」にあわせ、事業所の周囲約4kmにわたって国道・県道・市道の歩道の美化活動(除草・ゴミ拾い)を6月と11月に行いました。のべ1,076名の従業員が参加しました。この活動は二十数年前から毎年行っています。



事業所周辺清掃



■ 事業所見学

いわき事業所をより理解していただくために、近隣の方々を中心に積極的に見学を受け入れています。2013年度は、33件876名の方々に見学していただきました。東日本大震災前の件数に戻つつあります。

毎年恒例の「ツアーレハ」では、従業員の家族を招待し、事業所見学、技能研修センターでの危険体感教育の体験、家族が働いている職場見学を行いました。2013年度は、30家族84名が参加されました。



「ツアーレハ」技能研修センターでの危険体感教育の体験

■ 第12回 オールクレハスポーツフェスティバル

クレハグループ各社の従業員とその家族の親睦および地域の皆様との交流を深めることを目的として開催しているこの大会は、2013年度で第12回目を迎えました。2013年度は、着ぐるみの顔ぶれを増やし、種目の変更や近隣高校の高校生によるフラダンスの披露などで大会を盛り上げました。近隣地区役員、商店会役員、勿来地区小・中学校の皆様を招待し、前年度同様の約2,200人の参加がありました。



「ナイス投球」に参加の小・中学生



「キチントさん」と大会役員

■ いわきおどり 勿来大会

地元企業や団体など23チーム約1,400人が参加した「いわきおどり 勿来大会」にクレハグループから約150人が参加し、「ドンワッセ」の掛け声とともに、元気いっぱいの踊りを披露しました。特にクレハネイチャーグリーン(当社のコーポレートカラー)を基調とした浴衣姿が彩りを添えました。



いわきおどり 勿来大会

■ 樹脂加工事業所の取り組み

茨城地区では、「霞ヶ浦クリーンウォーキング」と称し、事業所から霞ヶ浦までの沿道と湖畔の清掃を行いました。また、8月の「小美玉市ふるさとふれあい祭り」に出店し地域の方々との交流をはかりました。

柏原地区では、「クリーン作戦」として事業所の外周、駐車場と柏原川沿いの清掃を行いました。また、10月に開催された『丹波市Go!Go!フェスタ2013』に出店し、NEWクレラップの使用の実演等を行い、地域の方々とのふれあいをしました。



霞ヶ浦クリーンウォーキング



丹波市Go!Go!フェスタ2013

社会貢献

■ 小学校理科授業と社会科見学

いわき事業所近隣の小学校3校の6年生を対象に、いわき事業所や研究所の従業員が講師を務める理科授業を行っています。2013年度は15年連続15回目を迎えました。

「水溶液の性質とはたらき」や「液体窒素やドライアイスを使用した実験」、クレハ製品を使用した実験「クレラップのバリア性の実験」、「活性炭の色素吸着の実験」などを行い、子供たちに理科の楽しさを伝えました。

また、社会科授業の一環として、同小学校の5年生を対象に事業所見学を実施しました。



勿来第二小学校理科授業風景



錦東小学校医薬品包装工場の見学

■ ふくしまエコキャップ運動

「再資源化」「二酸化炭素削減」「世界の子供たちにワクチンを贈る」の3つのテーマを掲げた「ふくしまエコキャップ運動」に協力するため、2008年5月からクレハグループとして収集活動を開始しています。2013年度までの寄託実績は、累計1,376kgに達しました。これは、ワクチン688人分、二酸化炭素削減効果4.3トンに相当します。



エコキャップの寄託

■ 医療での地域貢献

呉羽総合病院は、当社の附属診療所として1944年に開設され、1972年に社団法人呉羽会「呉羽総合病院」として独立しました。現在では、いわき市南部の中核病院として広く利用されています。

さらに、いわき市の福祉行政の一翼を担うため、介護老人保健施設「ガーデニア」を2008年3月に開設しました。医師による指導のもとで、看護および介護のケア、そして専門スタッフによるリハビリテーションを行っています。特に、隣接した呉羽総合病院による、より安心かつ安全性の高い医療サービスをご利用いただけるのが大きな特徴です。

医療と介護の両面から、「安心と安全」をモットーにした介護サービスの提供を心掛けてまいります。



介護老人保健施設「ガーデニア」



呉羽総合病院

■ 献血運動

いわき事業所では、日本赤十字社からの依頼を受けて、毎年、年3回献血に協力しております。

いわき事業所の献血活動は1987年(昭和62年)7月から開始し、2014年3月現在の累積人数は6,282人です。2013年度は一度に2台の献血バスが来社し、多くの人が協力しました。



献血バス



献血の様子



東日本大震災の復興支援「いっしょに笑顔。東日本応援プロジェクト」

# お客様とともに復興応援。 「農」と「食」分野の笑顔づくり



東日本大震災発生後の2011年から続けている「いっしょに笑顔。東日本応援プロジェクト」も2014年で3年目となりました。NEWクレアップの売上の一部から3年間で約1億円を寄付する予定です。お客様とともに東北の「農」と「食」の復興を応援するこのプロジェクトは、福島、宮城、岩手の各県で活動を行っており、多くの笑顔を生み出しています。

## 福島県 「食の安全・農業再生プロジェクト」



福島大学の「食の安全・農業再生プロジェクト」は、自治体や地元の農家などと連携しながら、正確で継続的な放射線の計測管理と情報の発信、土壌の放射性物質の低減・無放射能化対策の推進など、長期にわたる復旧・復興への支援を行っています。また、「安全な食」に対する生活者の正確な理解を図りながら、農業生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行う「基礎GAP」の取り組みを通じて、生産から流通まで、全ての段階において農産物の安全を保障し、生活者に安心と信頼を与える一貫したシステムを構築しています。さらに、付加価値のある農産物の開発・育成を通じて「元気な農業」の復活にも取り組んでいます。

関連 WEBサイト <http://shokuno-anzen.net/>

## 宮城県 「菜の花プロジェクト」



東北大学大学院農学研究科・農学部の「菜の花プロジェクト」は、津波で被災し塩害を受けた農地で、観光・食・エネルギー等につながる塩害に強い菜の花を栽培しながら農地の再生に取り組むと同時に、ITと農業の新たな可能性を探り、東北の農業力強化に向けて活動しています。また、2014年4月より、新たに開設された東北大学大学院農学研究科東北復興農学センターからのサポートも受けています。

関連 WEBサイト・書籍 <http://www.nanohana-tohoku.com/>  
『菜の花サイエンス』東北出版会

## 岩手県 「地域で支えあう食の復活プロジェクト」



岩手県立大学盛岡短期大学部では若手県栄養士会などと連携し、仮設住宅の集会所などで調理実習教室を開催することにより、被災者に食の楽しみと心身の健康を取り戻す機会を提供しています。「減塩料理教室」「親子料理教室」「かんたん料理教室」など、開催回数は岩手・宮城の両県で70回を超えています。「おいしいものを皆で楽しみながら調理する」「おしゃべりをしながら食べる」など、食の本来の目的である「命をつなぐ食」「楽しい食」「心が安らぐ食」を取り戻していただくことで身体も心も元気になる活動を行っています。

関連 WEBサイト・書籍 <http://egaiiwate.com/>  
『そのとき被災地は - 栄養士が支えた命の食 -』(公社)岩手県栄養士会

### プロジェクトリーダーからの声



福島大学副学長 (地域連携担当) 教授

小沢 喜仁さま

「ふくしま」の農産物は安全と信頼に支えられており、さらに「とても美味しい!」ということを伝えていきます。信頼を支える生産システム「基礎GAP」の普及とともに、果樹農家と高校生との協働による新たな施設型果樹栽培法を開発しながら、次世代の農業生産者を育てています。

### プロジェクトリーダーからの声



東北大学大学院農学研究科 教授 専任特別准教授 (復興推進担当) 複合生産フィールド教育研究センター長 東北復興農学センター長

中井 裕さま

「菜の花プロジェクト」は3年目となり、耐塩性の高いアブラナ科作物の育種や、被災地理解と支援のためのイベント開催などに取り組んでいます。2014年4月に東北復興農学センターも開設し、支援と研究の両面から東北の復興を加速させていく所存です。

### プロジェクトリーダーからの声



岩手県立大学 客員教授

乙木 隆子さま

東日本大震災発生から3年が経過しましたが、被災地では未だ多くの方が仮設住宅での不自由な生活を強いられています。最近は復興に向かっての明るい兆しを感じることもありますが、このプロジェクトは多くの皆さんに健康と笑顔を取り戻していただくため、岩手県栄養士会などとの連携のもと、料理教室を継続して開催していきたいと思っています。

## RC実施宣言

当社は、日本レスポンシブル・ケア協議会(現 社団法人日本化学工業協会 RC推進部)にその創設時から参加し、「化学物質の開発から生産・流通・廃棄に至る全ライフサイクルにわたって、環境および人々の安全を確保する企業の自主活動」、すなわちレスポンシブル・ケア(RC)活動の実施を1995年4月に宣言しました。

## RC取り組み体制

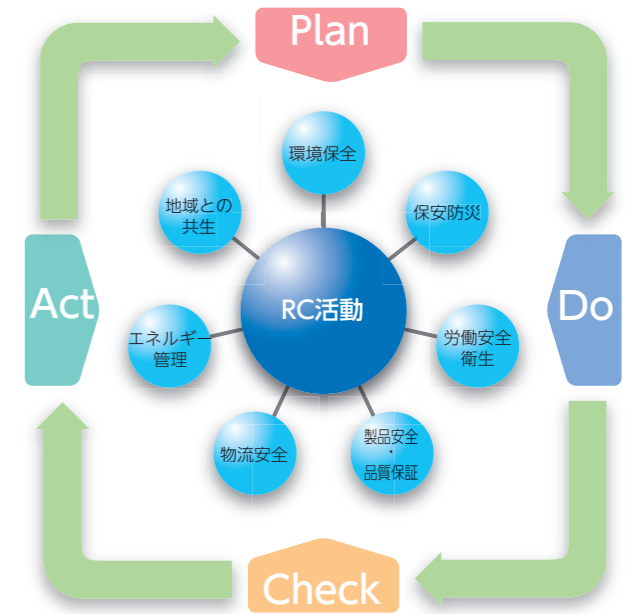
クレハグループのRC活動は、社長直轄のRC委員会を中心に推進しています。委員長および委員は、社長から任命されます。RC委員会のもとには特定の課題について対応策を立案する委員会が置かれています。

また、グループ会社のRC活動を適切に推進するため、当社およびRC宣言したクレハグループ各社で構成するオールクレハRC協議会が設置されています。オールクレハRC協議会のもとに、環境保全、エネルギー管理、保安防災、労働安全衛生、製品安全・品質保証、物流安全、地域との共生の分科会が置かれ、クレハグループのRC活動状況や課題について情報交換等を行っています。



## RCマネジメントシステム

当社では、環境マネジメントシステム(ISO14001)、品質マネジメントシステム(ISO9001)、労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を活用し、PDCA(Plan/計画、Do/実施、Check/点検・是正処置、Action/見直し)サイクルを回しながら、継続的な改善活動を行っています。



マネジメントシステムの認証取得状況	環境	品質	労働安全衛生
株式会社クレハ いわき事業所	2001年5月	1996年2月	2004年6月
樹脂加工事業所	2002年11月	1996年2月	2006年2月

## オールクレハ RC協議会構成図



RC活動の総括表

目的	目標	2013年度計画	2013年度実績	自己評価(※3)
全般	RC活動の継続的改善	RCマネジメントシステムの活用と自部署の課題達成に向けた積極的な活動の実行	<ul style="list-style-type: none"> <li>各部署の課題達成状況について内部監査による確認実施</li> <li>QMS 更新審査、EMS/OHSAS 維持審査を受審、システムを維持</li> </ul>	★★
環境保全	化学物質の大気排出量削減	PRTR制度(※1)対象物質、ばい煙、VOC、臭気等の排出量削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>PRTR 制度対象物質の排出量は 76 トンとなり、対前年 15 トン削減</li> <li>排ガス処理設備の管理徹底を継続</li> <li>臭気苦情なし</li> </ul>	★★★★
	排水品質の改善	総合排水の水質管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合排水処理設備の安定運転を継続</li> <li>各プラント出口での水質自主管理を継続</li> </ul>	★★★★
	廃棄物適正管理の徹底と減量の推進	廃棄物中期削減計画の実行とリサイクルの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の発生量は 1,300 トン増加、最終処分量は 400 トン削減</li> <li>リサイクル率は向上</li> <li>委託処分先 2 社の査察を実施</li> </ul>	★★
保安防災	重大設備事故ゼロ	各製造部の安定運転連続 250日以上を実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>各プラントで連続安定運転を達成</li> <li>防災訓練等で緊急時対応能力を向上</li> </ul>	★★★★
労働安全衛生	重大人身事故ゼロ	第3種以上の人身事故0件(※2) リスク抽出項目の設備対策可能項目の実施率100%達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>第3種以上の人身事故 0 件</li> <li>連続無事故無災害達成 17 年間：本社別館、包材技術センター(旧加工技術センター) 9 年間：研究所(総合、農業、新材料、PGA)</li> <li>リスク抽出項目の設備対策可能項目の実施率 69%</li> <li>各会議体で、他社事故発生事例の水平展開や過去の重大事故事例研究を実施</li> </ul>	★
品質保証・製品安全	顧客満足の向上	品質苦情・製品格別の対前年度比15%削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>品質苦情は目標未達、製品格別は目標達成</li> <li>外注先監査 13 件実施し指摘事項の適切な是正完了</li> <li>製品・原料・包材関連規格の見直しと改定</li> </ul>	★
エネルギー管理	エネルギー使用の合理化	エネルギー使用量原単位 1%/年の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギー使用量原単位は対前年度比 6% 増加</li> <li>輸送エネルギー使用原単位は、前年度比 5%削減</li> <li>各製造部での省エネルギー機器の導入</li> <li>省エネルギー活動の維持・推進</li> </ul>	★
地域との共生	社会から信頼される事業所	地域社会との共生とリスクコミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>第 11 回 CSR 地域対話集会を開催</li> <li>近隣小学校理科授業支援、ボランティア等地域貢献活動の実施</li> <li>事業所見学、ツアークレハの実施</li> </ul>	★★★★

(※1) PRTR 制度とは：事業所から排出したり、廃棄物として移動したりする化学物質の量を事業者が自ら集計し、都道府県を経由して国へ届ける制度  
 (※2) 人身事故の区分：第 1 種人身事故とは死亡を含む重大人身事故を指し、第 2 種人身事故とは 4 日以上休業、第 3 種人身事故とは 1～3 日の休業を指す。  
 (※3) 自己評価：★ 要努力；★★ ほぼ達成；★★★★ 良好

環境会計

当社は、効率的かつ効果的な環境保全対策の実施を目指しています。2013年度の環境会計として、環境省「環境会計ガイドライン2005年版」を参考に、事業活動における環境保全に係る経費および設備投資について、項目別に集計した金額

と主な取り組み内容および効果をまとめました。  
 環境会計情報は、皆様に当社の環境保全への取り組み状況を理解し評価していただくための有効な手段と考えています。

[単位：百万円]

分類	経費	投資額	主な取り組み内容および効果
エリア内コスト	2,091	556	
公害防止コスト	1,343	485	<ul style="list-style-type: none"> <li>大気汚染や水質汚濁などの公害問題は発生しませんでした。</li> <li>大気、水質、臭気、化学物質排出削減などの公害防止対策を実施しました。</li> <li>PRTR制度対象化学物質の排出量を対前年 15 トン削減しました。</li> <li>環境負荷監視のための測定を行いました。</li> </ul>
地球環境保全コスト	27	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネルギー対策(省エネ機器の導入、照明の削減、空調の適切な管理など)を実施しました。</li> <li>夏季と冬季に省エネ強調月間を設け、遵守状況のパトロールを実施しました。</li> <li>樹脂加工事業所では、レイアウト変更を通じて空調効率を改善することによって、温室効果ガスの削減を図りました。</li> </ul>
資源循環コスト	721	51	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物削減、リサイクルの推進を行い、廃棄物最終処分量は、対前年 400 トン削減しました。</li> </ul>
上・下流コスト	6	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>容器包装のリサイクルを行いました。</li> </ul>
管理活動コスト	71	37	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境マネジメントシステム(ISO14001)の運用を行いました。</li> <li>クレハグループ各社のRC活動を推進しました。</li> <li>「CSRレポート2013」を発行しました。</li> <li>エリア内緑化を行いました。</li> </ul>
研究開発コスト	1,461	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に配慮した電池用材料の開発を行いました。</li> <li>太陽電池用フィルムの開発を行いました。</li> <li>生分解性プラスチックの開発を行いました。</li> <li>自動車の軽量化用の PPS 樹脂の改良・開発を行いました。</li> </ul>
社会活動コスト	12	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>CSR地域対話集会を開催しました。</li> <li>双方向コミュニケーション紙「にしき」を発行しました。</li> <li>地域清掃美化活動に参加しました。</li> <li>クレハOB会による近隣の河川や金冠塚古墳の美化活動を支援しました。</li> </ul>
総計	3,641	593	

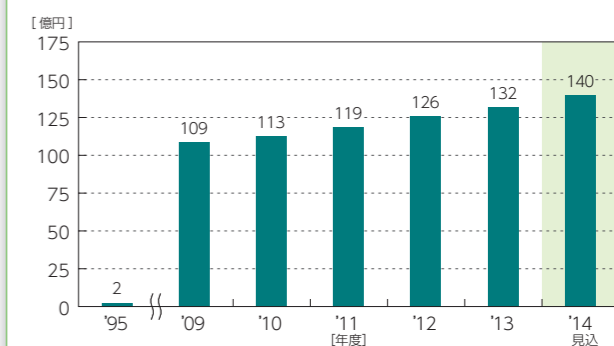
※集計範囲 株式会社クレハ  
 ※対象期間 2013年4月1日～2014年3月31日

環境保全対策投資

2013年度の環境保全対策投資額は、593百万円でした。その内訳は次のとおりです。

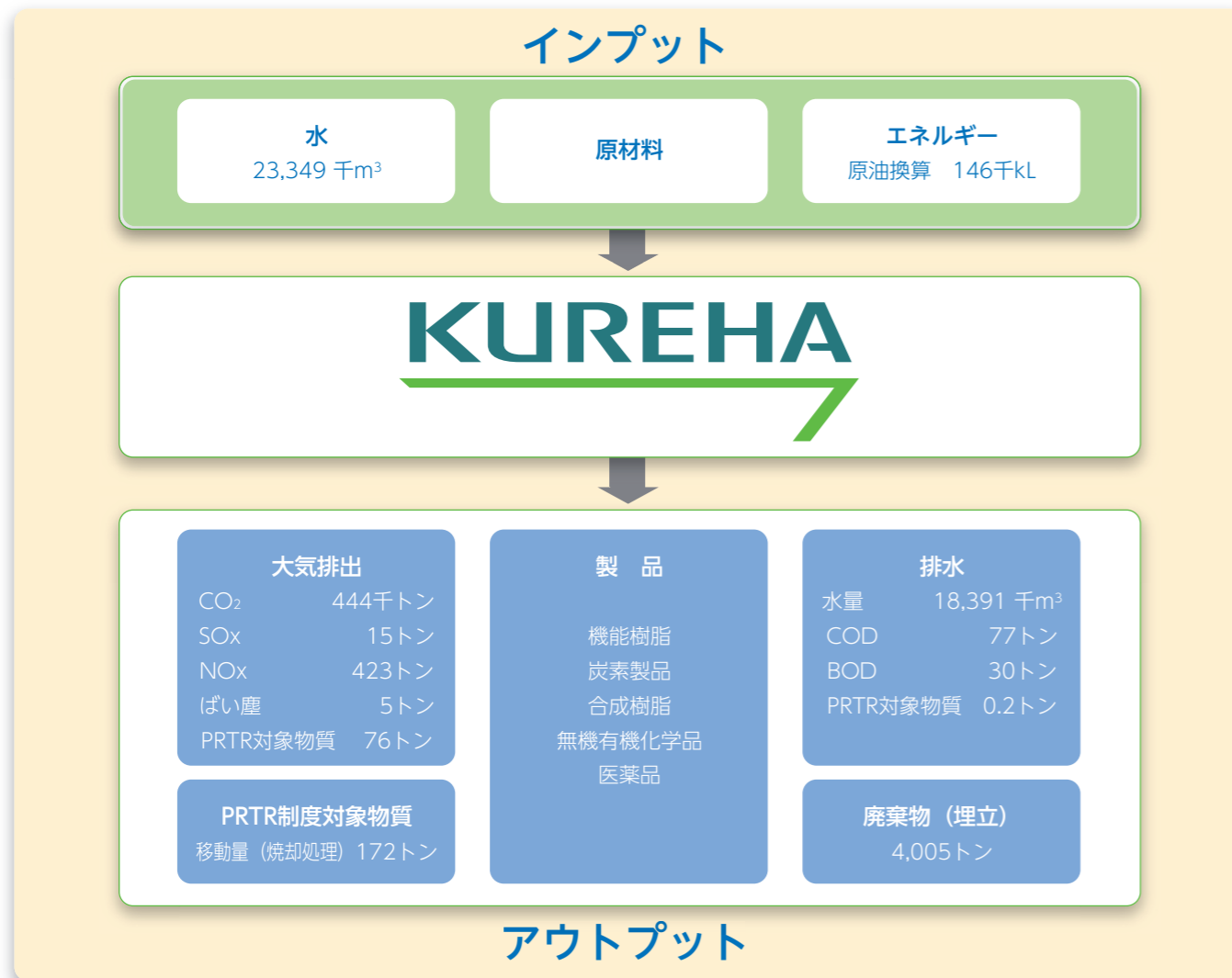
- ①大気汚染防止関係 約 27百万円
- ②水質汚濁防止関係 約 458百万円
- ③省エネ省資源関係 約 20百万円
- ④廃棄物・緑化関係 約 88百万円

環境保全対策投資累積額



## 環境負荷の全体像

当社の事業活動全体における主要なインプット(資源投入)とアウトプット(製品と環境負荷)を整理しました。



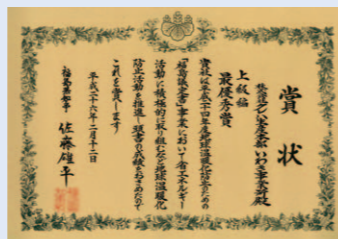
## 2013年度福島議定書「上級編」最優秀賞受賞

## いわき事業所での継続的な省エネ活動の取り組み

福島県が実施している「福島議定書」事業において、いわき事業所での2012年度の取り組みが「上級編」最優秀賞を受賞しました。「福島議定書」事業は、福島県内の学校や企業などが知事と議定書を結び、地球温暖化防止に取り組むもので、学校版は495校、事業所版には1,535社(上級編と従来編の合計)の企業が参加しました。

## &lt;2013年度の取り組み&gt;

いわき事業所では、省エネルギー活動委員会を中心に省エネルギー活動を推進しています。室温管理の強化や昼休み空調機停止、排熱回収、照明の高出力型ランプへの転換、保温材の点検と整備などを実施し、使用エネルギーの削減に努めています。夏季と冬季には、省エネルギー強調月間を設定し、省エネパトロールや社内電子掲示板への省エネ事例の掲載などの活動を行っています。その結果、オフィスエリアでの2013年度夏季(7~9月)の電気使用量は、対前年同期比9.7%の削減ができました。



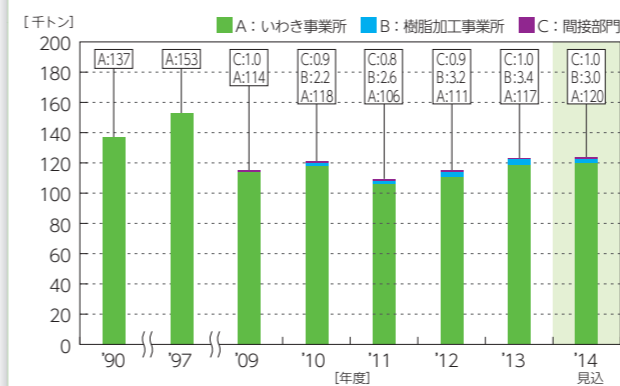
## 地球温暖化防止

当社は、エネルギー使用の合理化と地球温暖化防止を方針として定め、エネルギー管理委員会を中心にして、エネルギー使用量原単位の低減、運転管理、省エネ機器の導入を推進しています。2013年単年度における、いわき事業所のエネルギー使用量原単位は、オフィスエリアでの電気使用量は削減しましたが、生産活動におけるエネルギー使用量が増加したため、前年度に比べ、7%増加しました。樹脂加工事業所のエネルギー使用原単位は7%減少しました。全社としては、6%増加しました。また、2013年度のいわき事業所の温室効果ガス排出量は、前年度に比べ5%、樹脂加工事業所の温室効果ガス排出量は7%それぞれ増加しました。

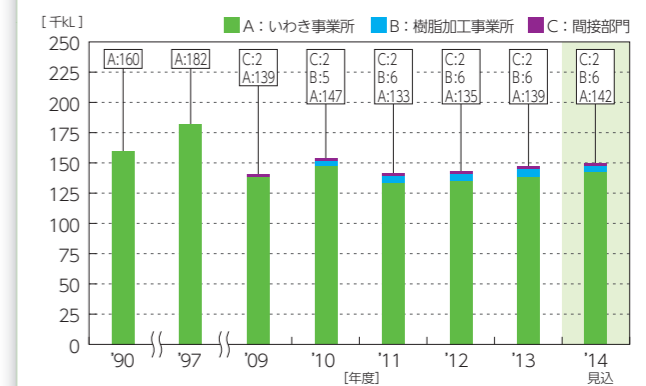
わが国は京都議定書の第二約束期間(2013~2020年)には参加せず、独自の中期目標を設定して温暖化対策を進めることとなっています。当社は、新たな長期目標「クレハECO<sup>2</sup>アクション20」として、エネルギー使用量原単位については、「年平均1%以上の低減」、温室効果ガス削減については、経済活動の変動を大きく受けない指標として、BAUからの削減値を選定し、「2005年度を基準とし、2020年度のBAU CO<sub>2</sub>排出量の10%以上削減」を目標にしています。

※BAU: Business as usual 特段の対策を行わない場合の将来予測値

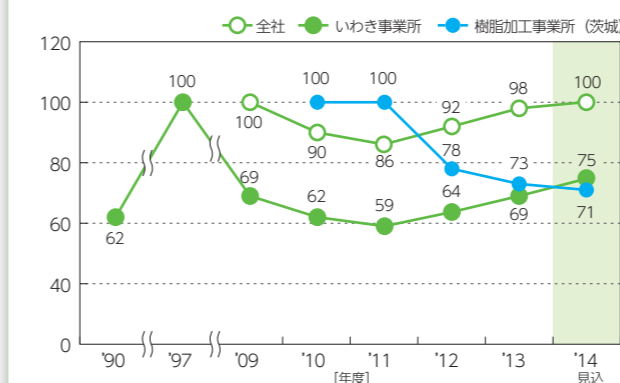
## ■ 二酸化炭素排出量(炭素換算)



## ■ エネルギー使用量(原油換算)

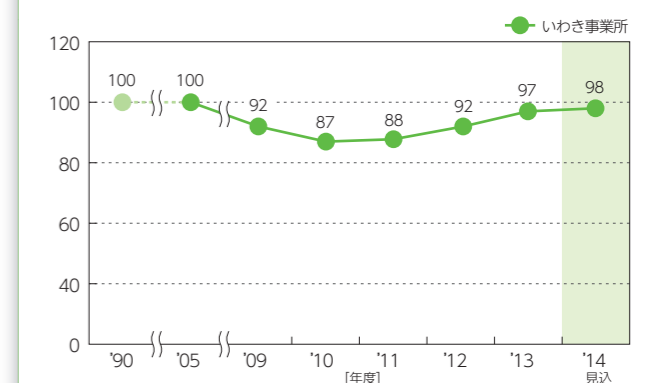


## ■ エネルギー使用量原単位指数(付加価値生産額基準)



- 省エネ法に基づきいわき事業所の1997年度のエネルギー使用量原単位(エネルギー使用量÷付加価値生産額)を100とした各年度の指数
- 改正省エネ法に基づき全社の2009年度のエネルギー使用量原単位を100とした各年度の指数
- 改正省エネ法に基づき樹脂加工事業所(茨城)の2010年度のエネルギー使用量原単位(エネルギー使用量÷付加価値生産額)を100とした各年度の指数

## ■ エネルギー使用量原単位指数(生産量基準)



エネルギー使用量原単位指数は2005年度を基準とした各年度の指数。

## エネルギー使用量原単位指数(生産量基準):

A 製品(ソーダ)を基準とした場合の当該年度のエネルギー使用量原単位 = (A 製品製造総エネルギー + B 製品製造総エネルギー + C 製品製造総エネルギー) / (A 製品生産数量 + B 製品生産数量 × 換算係数 B90 + C 製品生産数量 × 換算係数 C90)

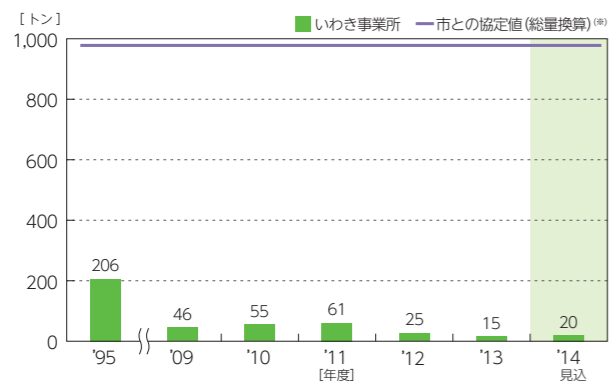
ただし、換算係数 B90 および換算係数 C90 とは、1990 年度(基準年度)における B 製品および C 製品のエネルギー使用量原単位の、A 製品のエネルギー使用量原単位に対するそれぞれの比率を示す。[基準製品換算方式]

大気汚染防止

いわき事業所は、いわき市と大気汚染防止に関する公害防止協定を結び、硫酸化物(SOx)の排出量の上限を定めています。また、窒素酸化物(NOx)およびばい塵の排出量上限は、いわき市との協議の上、いわき事業所で自主管理値を定めています。いわき事業所では、これらの値を十分に達成した運転を継続しています。

SOx 排出量

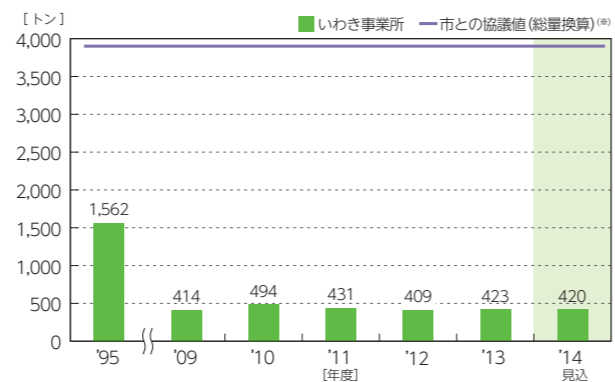
2006年度に発電設備のボイラーを更新したことで排出量は下がりました。以後、そのレベルを維持しています。2011年度は、ボイラー排ガス処理設備の一部に震災の影響が残り、最適運転時に比べて若干排出量が増加しましたが、2012年度、2013年度は年間を通じて安定運転を継続しました。



(※)いわき市との公害防止協定協議では、周辺環境への影響を最小限に抑制することを目的に、公害防止協定の協定値や法規制値より低い排出量を定め、その協議値をばい塵発生施設の届出値に反映しています。グラフには、2003年度時点の届出値を合算した総量換算値を参考として示しました。

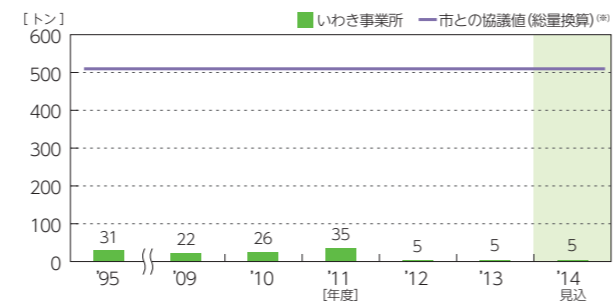
NOx 排出量

燃料が燃える際、燃料に含まれている窒素や空気中の窒素が酸素と結合して窒素酸化物(NOx)が発生します。ボイラーが主な発生源です。



ばい塵排出量

大気中に浮遊する粒子状の物質のうち、燃料等の燃焼や電気炉等の使用に伴って発生する煤をばい塵と呼んでいます。ボイラーが主な発生源です。SOxと同じく、2011年度は、ボイラー排ガス処理設備の一部に震災の影響が残り、最適運転時に比べて若干排出量が増加しましたが、2012年度、2013年度は年間を通じて安定運転を継続しました。



化学物質排出把握管理促進法 (PRTR 制度)

化学物質排出把握管理促進法とは、事業所から大気や公共水域などの環境へ排出されたり、廃棄物として移動された化学物質の量を、事業者が自ら集計し、都道府県を經由して国へ届け出る制度 (PRTR制度) と、指定された化学物質およびそれを含有する製品を取り扱う事業者が、それらを他の事業者に譲渡等する際に、事前にその性状及び取り扱いに関する情報を提供することを義務付ける制度 (SDS制度) の実施により、事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止することを目的とした法律です。

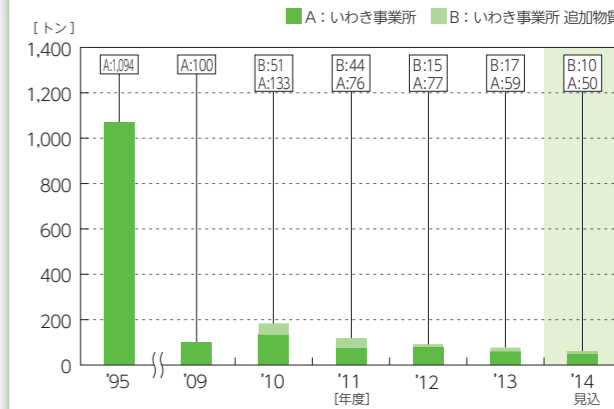
PRTR制度で届出対象となっている化学物質 (第一種指定化学物質) は2009年度まで354物質でしたが、法改正により、2010年度からは108物質追加され、462物質となりました。

2013年度の当社の第一種指定化学物質の排出量は、21物質で約76トンでした。クロロベンゼン類の排出量削減対策の

進捗や各プラントの安定運転継続等により、排出量は前年比15トンの削減となりました。

今後も継続的に排出量削減に取り組んでいきます。

PRTR制度対象化学物質排出量



2014 年度 PRTR 制度届出値 (2013 年度実績)

No.	政令番号	物質名	排出量 (kg)				移動量 (kg)	
			大気	公共水域	土壌	事業所内埋立	下水道	事業所外
1	9	アクリロニトリル	3,300	1	0	0	0	0
2	16	2,2'-アゾビスイソプロピロニトリル	0	0	0	0	0	0
3	57	エチレングリコールモノエチルエーテル	80	0	0	0	0	0
4	71	塩化第二鉄	0	0	0	0	0	0
5	94	塩化ビニル	2,500	8	0	0	0	0
6	103	1-クロロ-1,1-ジフルオロエタン	3,000	0	0	0	0	1,500
7	125	クロロベンゼン	1,800	5	0	0	0	2,100
8	158	1,1-ジクロロエチレン	42,000	0	0	0	0	23,000
9	159	cis-1,2-ジクロロエチレン	0	0	0	0	0	1,200
10	181	ジクロロベンゼン	5,000	31	0	0	0	110,000
11	243	ダイオキシン類 (mg TEQ/y)	0	8	0	0	0	2,100
12	280	1,1,2-トリクロロエタン	22	0	0	0	0	520
13	281	トリクロロエチレン	0	0	0	0	0	11,000
14	290	トリクロロベンゼン	0	0	0	0	0	10,000
15	300	トルエン	2	0	0	0	0	1,800
16	302	ナフタレン	4,500	190	0	0	0	4,800
17	349	フェノール	1	0	0	0	0	0
18	392	n-ヘキサン	12,000	0	0	0	0	5,600
19	400	ベンゼン	1,100	0	0	0	0	380
20	420	メタクリル酸メチル	6	0	0	0	0	0
21	438	メチルナフタレン	470	0	0	0	0	0

※ PRTR 制度対象物質 (第一種指定化学物質) で、年間取扱量 1 トン以上の物質についての届出値です。  
 ※ 事業所外へ移動した物質の多くは焼却炉環境 (廃棄物処理業) で焼却処分しています。

担当者の声



「より良い環境づくりを目指して」

環境保全グループでは、事業所から排出される排水・大気・廃棄物等の管理や環境関連に関する法対応業務を行っています。

環境に配慮したより良いいわき事業所を目指して各部署と連携し、今後も地域の皆様に信頼していただけるよう、環境の改善と維持管理に責任感を持って取り組んでいきます。

いわき事業所  
環境・安全部  
下坂 寛嗣

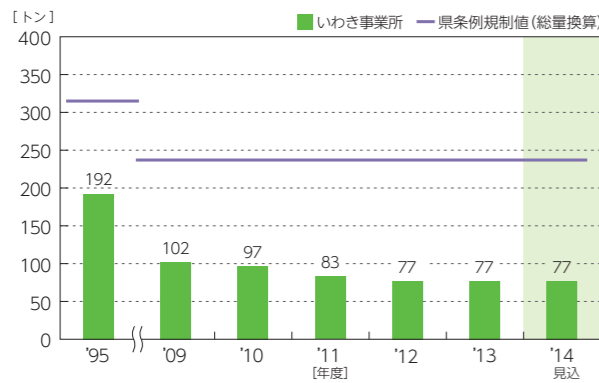
### 水質汚濁防止

いわき事業所は、水質汚濁防止法と福島県条例（生活環境の保全等に関する条例および水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例）で定められた排出基準を遵守しています。

各プラントでの排水管理の徹底、排水処理設備の改善検討や安定運転の継続を図り、排水水質の維持向上に努めています。

#### COD 排出量

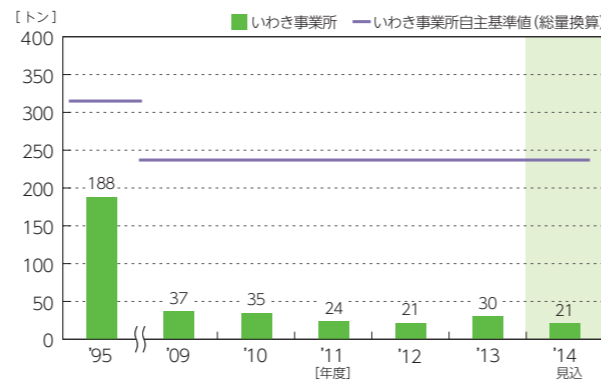
化学的酸素要求量 (COD) は1995年度と比較し、50%以上の削減を達成しています。今後も削減に向け、努力していきます。



県条例規制値とは:  
いわき事業所は「福島県水質汚濁防止法に基づく排水基準を定める条例」により工場排水CODの濃度規制を受けています。その条例に定められている排水基準を基に算出(濃度×排水量)したCOD総量換算値です。2001年度以降は排水量を削減したので、COD量としての規制値が低下しています。

#### BOD 排出量

生物化学的酸素要求量 (BOD) は1995年度と比較し、80%以上の大幅な削減を達成しています。今後も削減に向け、努力していきます。



いわき事業所自主基準とは:  
いわき事業所におけるBODの濃度規制は、水質汚濁防止法の規制を受けています。しかし、前述の条例に定められているBOD排出基準の方がより厳しい規制となっているため、条例の基準を自主基準と定めて管理しています。その自主基準をもとに算出したBOD総量換算値です。このBOD量自主基準もCODと同様に排水量削減により低下しています。

### 産業廃棄物の排出量削減とリサイクル

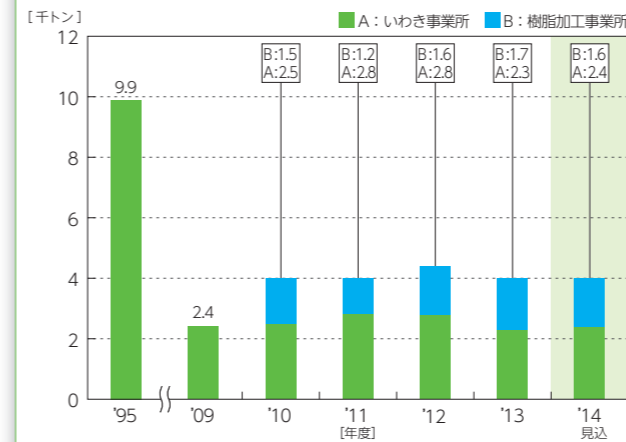
いわき事業所では、隣接する廃棄物処理会社である(株)クレハ環境等に産業廃棄物の処理を委託しています。また、自社で管理型の最終埋立処分場を持つなど、事業活動から排出される産業廃棄物の処理は重要な責務であるとの考えのもと、取り組んでまいりました。

2006年度には石炭を燃料とするボイラーの稼働に伴い、廃棄物(石炭の燃え殻や集塵灰)の発生量が大きく増加しましたが、セメント等の原料として再資源化処理業者に委託することで、リサイクル率向上を図っています。

樹脂加工事業所では、製品収率向上、分別の徹底と再資源化による廃棄物の減量化を図っています。

今後も、廃棄物量の削減とリサイクル率の向上に努めていきます。

#### 廃棄物最終処分量



廃棄物最終処分量とは:  
直接および中間処理(焼却減容化)後の廃棄物等を最終処分場に埋立処理した合計量です。

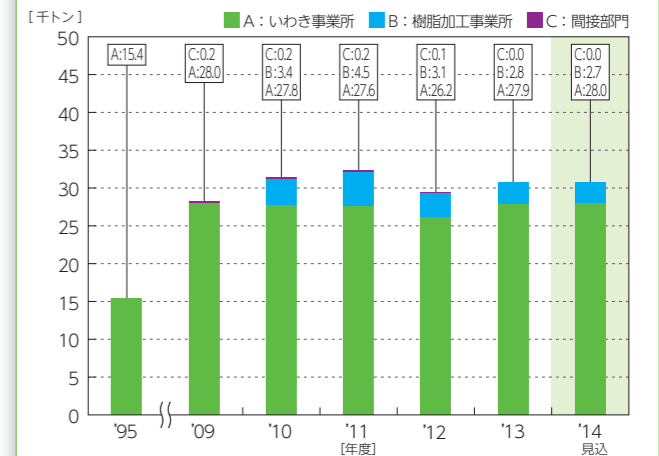
### 容器包装リサイクル法

2002年度から、主にプラスチックと紙の容器・包装の再商品化義務を履行しました。

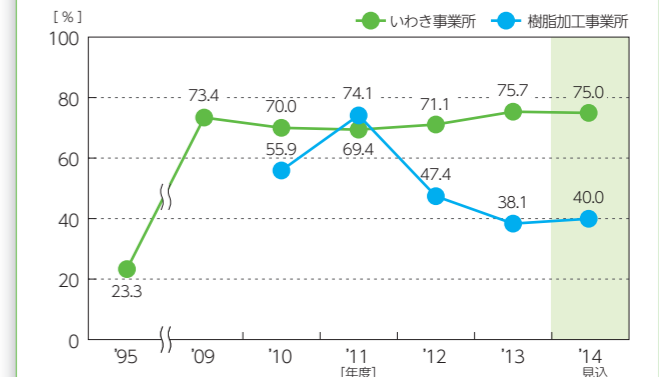
公益財団法人日本容器包装リサイクル協会と再商品化委託契約を結び、着実に実施しています。

当社が再商品化義務を負う容器包装の量(再商品化義務量)の推移を右に示します。

#### 廃棄物発生量

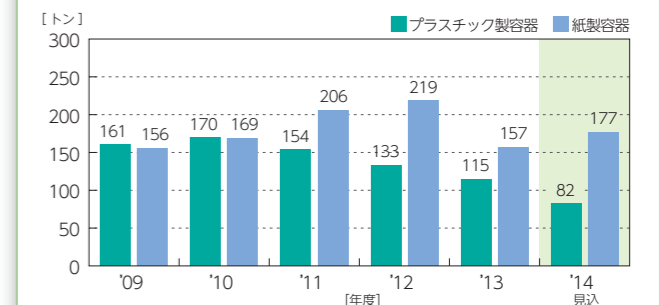


#### 廃棄物リサイクル率



廃棄物リサイクル率とは:  
リサイクル使用した廃棄物(再利用、再資源化・有価物含む)と廃棄物の発生量の比(リサイクル量÷廃棄物発生量)です。

#### 再商品化義務量



## 第5回「ものづくり日本大賞」[経済産業大臣賞] 環境負荷低減を実現する「高機能型生分解性樹脂ポリグリコール酸 (PGA) の開発」が受賞しました。



当社は、第5回「ものづくり日本大賞」において、「環境負荷低減を実現する高機能型生分解性樹脂ポリグリコール酸 (PGA) の開発」で、「経済産業大臣賞」(製品・技術開発部門)を受賞しました。



- <受賞件名> 環境負荷低減を実現する高機能型生分解性樹脂ポリグリコール酸 (PGA) の開発
- <概要> 生分解性に加えて、耐熱性と既存樹脂の中でもトップクラスの機械強度とガスバリア性を有するポリグリコール酸 (PGA) の量産に世界で初めて成功しました。高機能かつ生分解性の高分子PGAを安価に安定供給できる世界唯一のサプライヤーとして顧客と一緒に用途開発に取り組み、シェールガスの掘削材料として採用されたほか、包装材料や医療用途での活用も始まっています。

今後、高分子PGAが安定的に市場に供給されていくことにより、高機能型生分解性樹脂の新しい応用分野の開発が促進され、社会と技術の発展に貢献していくことが期待されています。

RC 報告 環境負荷の低減に対する取り組み

RC 報告 環境負荷の低減に対する取り組み

## 保安防災

当社では、危険物・高圧ガス・毒劇物を多量に取り扱っています。このため、保安・防災は事業所の最も重要な責務であり、設備管理および運転管理を徹底して行っています。石油コンビナート等災害防止法、消防法、高圧ガス保安法、毒劇物取締法をはじめとする法律に定められた基準の遵守にとどまらず、自主的な管理基準の設定や設備の予防保全に取り組み、地域の信頼にさらに応えられるように保安・防災を強化しています。

### ■ 主な保安防災訓練

緊急事態において、各従業員に与えられた役割を迅速かつ的確に遂行できるように、実践に即した訓練を実施しています。

#### ① 総合防災訓練

大規模地震による製造装置や屋外タンク等からの危険物の漏洩、火災発生等を想定した防災訓練をいわき事業所の全職場を対象に実施しています。2013年度は、10月29日に福島県沖を震源とする震度6弱の地震が発生したとの想定で、東日本大震災から学んだ教訓を反映させた訓練を行いました。グループ会社を含む従業員約1,450名が参加し、いわき市消防本部をはじめ、いわき市消防団第三支団、いわき南警察署、いわき市環境監視センター、近隣の区長・自治会長の27名の方々の監視の下、訓練を実施しました。

#### ② 社長保安査察・防災訓練

2006年に発生したPPSプラントの事故を風化させないため、火災があった9月7日を「防災の日」に定め、毎年、この日の前後に社長による保安査察・防災訓練を実施しています。2013年度は、9月6日に電解プラントで震度6弱の地震でガスの漏洩が起きたことを想定し、鎮圧活動や怪我人の救助活動訓練を行いました。

#### ③ 職場ごとの訓練

事業所全体の総合防災訓練とは別に、各職場では年間計画を立て、常備防災隊の指導の下で防災訓練を実施しています。

#### ④ 樹脂加工事業所の保安防災

樹脂加工事業所茨城地区では、年に1回防災訓練を実施しています。2013年度は、4月26日に小美玉市消防本部・玉里消防署員の立会のもと総合防災訓練を実施しました。目的は、生命や身体、財産(建屋・設備等)を、地震や火災から保護するとともに、被害を最小限にすることです。



いわき事業所 総合防災訓練



いわき事業所 総合防災訓練



いわき事業所 社長保安査察・防災訓練



樹脂加工事業所(茨城) 総合防災訓練

各防災組織や消防用設備がきちんと機能を果たすことを確認しました。トランシーバーを導入し、対策本部と本部隊、地区隊との的確な情報伝達を可能にしました。

#### ⑤ 事業所以外の防災訓練

本社、本社別館、包材技術センター(旧加工技術センター)では、地元の消防署員の立会いの下で、防災訓練を実施しました。

## 人身事故リスクの撲滅運動

「自分の身を守り、仲間の身を守る。それは家族や地域社会を守ることに繋がり、地域から真に信頼を得ることに繋がる」のスローガンと、抽出されたリスクには設備による安全対策を基本として全て対策を実施するという生産本部長の決意の下、人身事故をはじめとした各種事故の発生リスクを撲滅するため、「人身事故発生リスクの撲滅運動」と称して例年以上にリスクの抽出と対策の立案、推進を行いました。リスクの抽出は、クレハだけでなく、事業所内で作業をしているクレハグループ会社や協力会社の視点で感じたリスクも抽出し、対策を必要とするリスクに含めています。抽出件数は、全体で約1,900件ののぼり、3か年計画で対策を実施することとしました。速やかに、そして計画的に対策を進め、また、今後も継続してリスクの抽出を行い、人身事故発生リスクゼロを目指します。

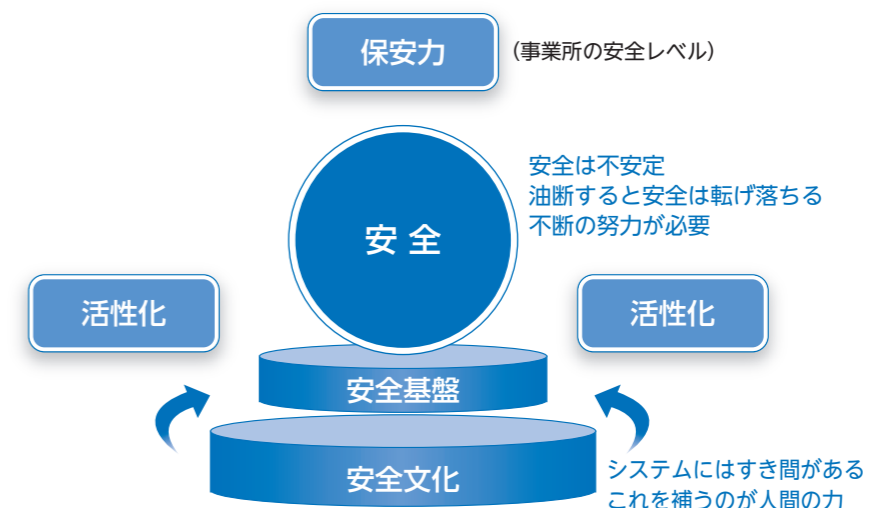
#### 保安力評価活動

クレハでは、安全工学会が保安力評価推進委員会を設立した2012年からその事業に参画し、保安力評価システムの構築に協力してきました。2013年には、いわき事業所の1プラントを対象に、保安力評価システム(第1版)による自主評価を実施しました。

その評価結果では、課題(弱点)として主に2項目が浮かび上がってきました。その弱点の克服のため、社内関係部署で弱点克服に向けた活動をスタートしました。今後も保安力評価システムにより自らの保安力レベルの把握を適時実施し、近隣地域をはじめとしたステークホルダーの皆様にご迷惑とご心配をお掛けしないよう、災害ゼロを目指して保安力向上に努めていきます。

#### ■ 保安力イメージ

安全を『安全基盤』と『安全文化』が支えるというもの。その総体が『保安力』。



#### 【保安力評価システム】とは：

石油・化学事業所における事故やコンプライアンス違反などの発生を契機に、事故の低減及びプロセス安全・安全文化の考え方を取り入れた安全のコンセプトとして、安全工学会が構築したものです。

## 労働安全衛生

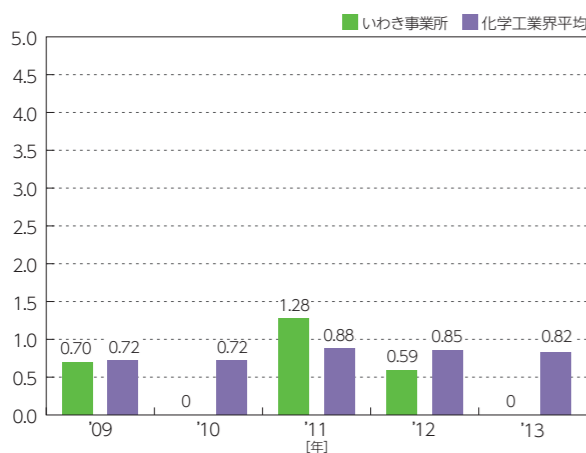
いわき事業所では、事故防止委員会や安全衛生委員会等の各種委員会の下、安全活動(整理・整頓・清掃・清潔・躰を励行する5S運動、指差し呼称運動、危険予知活動等)を展開しています。また、2004年度からは労働安全衛生マネジメントシステム(OHSAS18001)を導入し、職場の安全確保に取り組んでいます。2013年度は、「人身事故発生リスクの撲滅運動」と称して、従来から行ってきたリスクアセスメントをより徹底し、さらに設備改善を基本対応とするリスク撲滅運動を展開しました。そこで抽出されたリスクとその改善は、件数が多いため、3か年計画で改善を進めていきます。

樹脂加工事業所でも、2013年度より、「人身事故発生リスクの撲滅運動」を展開し、徹底した危険源の抽出を行い不安状態、不安全行動の改善に取り組んでいます。定期的な危険予知訓練研修会の開催、安全設備体感教育への参加、ヒヤリ・ハット活動、安全衛生パトロール等も継続しています。

本社別館と包材技術センター(旧加工技術センター)は17年間、研究所(総合、農薬、新材料、PGA)は、9年間の無事故無災害を継続しています。

## 休業度数率

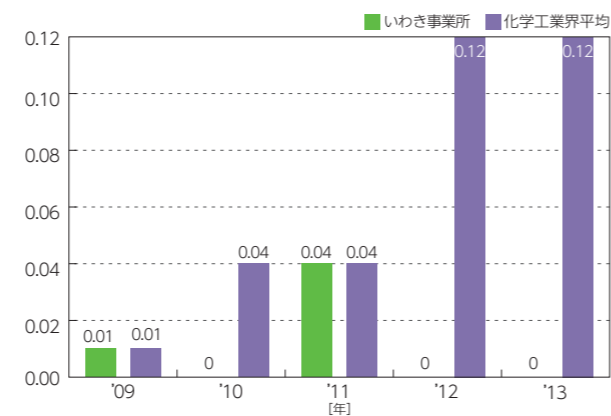
いわき事業所



休業度数率：  
100万労働時間あたりの死傷者の発生頻度を表す。  
休業度数率 = 死傷者数 ÷ 労働延時間 × 1,000,000

## 休業災害強度率

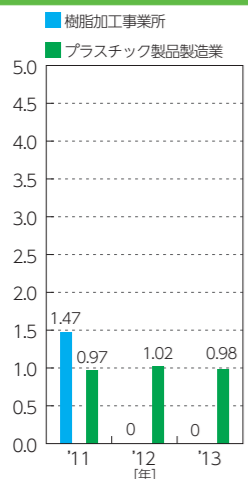
いわき事業所



休業災害強度率：  
死亡、傷病による損失日数を、その年またはその月の労働延時間数で除し、1,000倍したもので、災害の程度の大小を知るための数値。  
休業災害強度率 = 総損失日数 ÷ 労働延時間 × 1,000

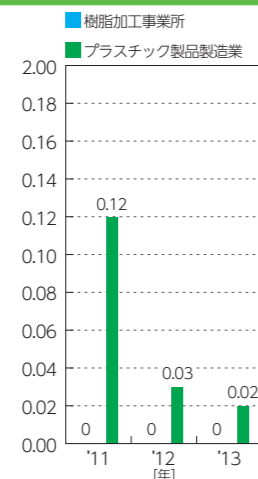
## 休業度数率

樹脂加工事業所



## 休業災害強度率

樹脂加工事業所



## いわき事業所安全大会

いわき事業所では、全国安全週間に合わせ、毎年安全大会を開催しています。2013年度は、安全活動結果報告、中央労働災害防止協会 原安全管理士による講演を行いました。大会の最後には、144名の出席者全員によるゼロ災達成に向けた指差唱和を行いました。



安全大会

## 衛生週間特別講演会

いわき事業所では、毎年の衛生週間に合わせ、メンタルヘルスをを含む衛生関連の特別講演会を開催しています。

2013年度はクレハ健康保険組合と共催し、管理栄養士武田三花先生による講演「今、日本人の食に何がおきているか 未来の健康をつくるために」を行いました。148名が参加し、改めて健康管理における食事の大切さを実感しました。



特別講演会

## 技能研修センター

いわき事業所では、グループ会社・協力会社とともに保安防災・労働安全衛生に対する意識の高揚に努め、一丸となって労働災害、事故の撲滅に取り組んでいます。その取り組みの一環として、危険を疑似体感できる技能研修センターを2005年11月に開所し、2013年11月で9年目を迎えました。

2013年度は、いわき事業所およびグループ会社の従業員を対象として、救出体感と応急手当体感を実施し、約1,200名が受講しました。いわき地区以外の事業所、グループ会社および近隣の企業・団体にも、希望する体感項目の受講を通じて、安全教育に活用していただいています。開所からの延べ利用者数は2014年3月末でクレハおよびグループ会社で約19,200名となっています。

今後もさらに多くの方に受講していただけるように、新しい体感研修を検討していきます。



応急手当体感



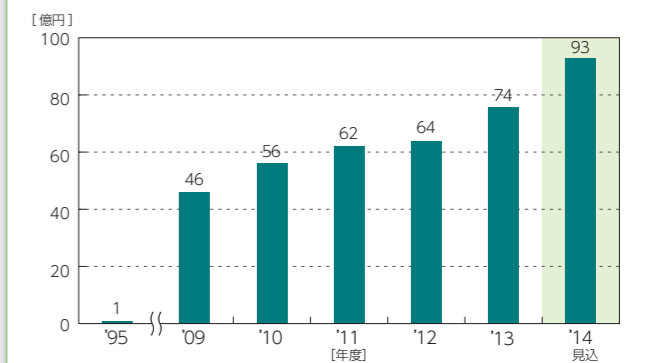
救出体感

## 保安防災・労働安全衛生対策投資

保安防災・労働安全衛生対策投資額の推移を示します。継続的・計画的に、保安設備の改善と作業環境の維持・向上に努めています。

今後も継続して、保安の確保と労働安全衛生の向上に努めていきます。

## 保安防災・労働安全衛生対策投資累積額



## 全国産業安全衛生大会 須能特別顧問が緑十字賞を受賞

当社 生産本部 いわき事業所 須能特別顧問は、2013年10月30日～11月1日に行われた全国産業安全衛生大会で、中央労働災害防止協会の会長表彰である緑十字賞を受賞しました。須能特別顧問は、2010年4月から2013年3月までいわき市労働基準協会会長および福島県労働基準協会副会長を務めるなど、事業所はもとより福島県やいわき市の産業安全・労働衛生向上のため、諸課題に取り組みました。

## &lt;緑十字賞について&gt;

緑十字賞は、長年にわたり我が国の産業安全又は労働衛生の推進向上に尽くし、顕著な功績が認められる個人及び職域グループ等に対して贈られる賞です。平成25年度は全国で84名の方々が受賞しました。



## 品質方針

いわき事業所で1996年にISO9001を認証取得し、2003年に対象を全社に拡大しました。2013年も最新版のISO9001:2008による更新審査に合格し、営業部門、間接部門を含めた当社品質マネジメントシステムの良好な運用状況が認証機関より評価されました。

2013年度の品質方針と主要テーマは以下のとおりです。

## クレハ 品質方針

1. 私たちはお客様に一層満足していただけるよう、製品とサービスの品質向上に努めます。
2. お客様に安全な製品を提供し安心してご使用いただくことに努めます。
3. 保安防災を徹底し、製品の安定供給に努めます。

## &lt;2013年度主要テーマ&gt;

- ①お客様のご要望を的確に把握し、品質マネジメントシステムの運用を強化することにより、品質の向上を図る。
- ②製品の安全性リスクを把握し、製品安全に関する事故の発生を未然に防止する。
- ③お客様の信頼性確保のために、外注製造先を適切に管理し、外注製品の品質を適正に確保することにより、重大な苦情発生を未然に防止する。
- ④KAIZEN活動を通して製造力を強化し、製造コストの低減を図り、競争力を高める。

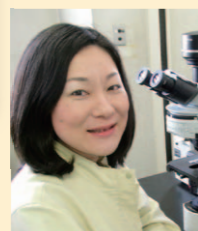
この方針を受け各部署において毎年度、詳細な品質目標を策定し、進捗管理を実施しています。

## 製品安全・品質保証

当社では多様化し、グローバル化する法規制、お客様のご要望に対応し、安全な製品をご提供するために、積極的かつ的確な情報収集に努め、社内専門家により、それらを踏まえた新製品安全審査を当社自主基準に基づき実施しています。新製品安全審査は、製品設計、原料購入、製品品質、包装規格にわたり、製品の上市にあたっては、包装表示、広告・宣伝、SDS、知的財産権等の面からも厳格な審査を行っています。

製造や加工を外部委託している製品については、国内外の委託メーカーに対し当社と同等の品質管理を求め、委託メーカーと一体となり、製品安全、製品品質の維持向上に努めています。

## 担当者の声



安全性研究・評価センター  
高木 理恵

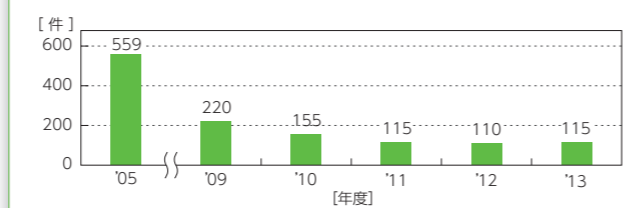
## 「培ってきた技術・経験を次の世代へ」

私が担当している遺伝毒性試験は、発がん性を予測するスクリーニング試験として化学物質全般の安全性評価に用いられる試験のひとつです。化学物質が染色体やDNAに与える影響を、細菌を用いた復帰突然変異試験(エームス試験)や培養細胞を用いる染色体異常試験などで調べます。入社以来携わってきた仕事ですので、試験の管理・実施は得意とするところで、今はこれまで培ってきた技術や経験を後輩に伝えることも大事な仕事になっています。

また、当社に対するお客様からの品質監査も積極的に受審しています。当社製造工程に対するお客様の視点によるご指摘、ご意見を基に確実な改善を実施し、苦情発生要因の撲滅を図り製品安全の向上に努めています。

当社品質マネジメントシステムの適切な運用、およびKAIZEN活動により、お客様からの苦情受付件数低減に取り組めます。

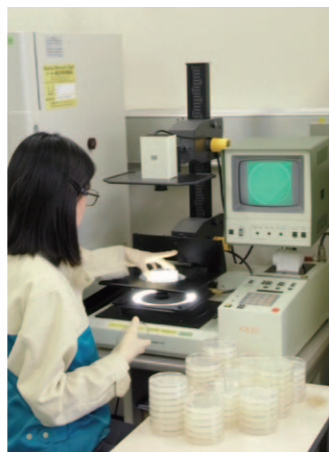
## ■ 苦情受付件数(苦情調査受付件数の推移)



## 安全性研究・評価センター

安全性研究・評価センターの役割は、これまでの医農薬開発で培った安全性研究、評価技術を基に、クレハで開発、使用される各種化学物質、素材、製品の安全性評価を実施し、環境やヒトの安全性に配慮した製品の開発、作業者の安全確保に貢献することです。

具体的には、センター内での安全性試験研究の実施や国内外の外部試験施設での委託試験の実施、各種文献調査により、化学物質の有害性に関する様々な情報を収集しています。そして、化学物質の使用用途や使用量、使用方法に応じた適切なリスク評価を実施し、製品の開発、生産、販売の各部門と連携して、より安全性の高い製品の開発に努めています。



細菌を用いた復帰突然変異試験

## 物流段階での環境負荷低減

物流分野における環境負荷低減は、改正省エネ法に基づき、特定荷主として毎年、エネルギー使用量削減計画の策定と実績報告が義務付けられ、エネルギー使用量原単位(エネルギー使用量/輸送重量)を年平均1%以上低減させる目標の達成に向けて、近年では以下の取り組みを行っています。

- ①生産拠点からの直送化や車両大型化による輸送距離の短縮
- ②共同配送など輸送の効率化による積載率の向上
- ③包装形態・荷姿変更による積載率の向上
- ④取引運送事業者によるエコドライブ推進や車両更新計画に沿った新型車両導入による燃費の向上

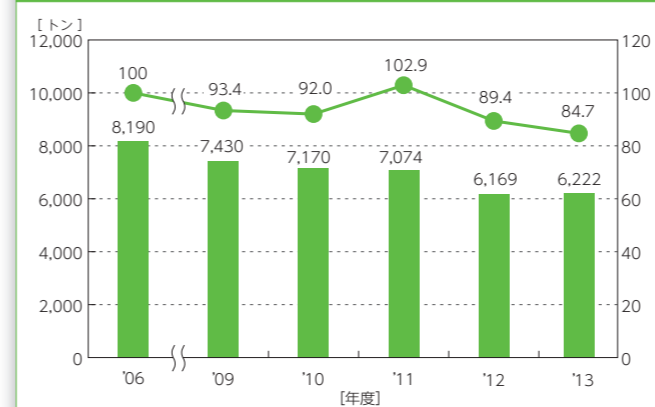
結果、2013年度のエネルギー使用量原単位は、基準年となる2006年度比で15%の減少、二酸化炭素排出量は1,968トンの減少となりました。

2010年7月にはモーダルシフトの取り組みが評価され、「エコルールマーク」の取り組み企業認定ならびにNEWクレラップをはじめとする家庭用品の商品認定を受け、現在も継続しております。また、昨年4月に当社内で改革推進プロジェクトが発足し、無理、無駄、ムラを無くすことでコスト削減に繋がる施策の具現化を進めています。

これらの施策が環境負荷低減に繋がるよう今後も意識して取り組んでまいります。



## ■ 特定荷主二酸化炭素排出量およびエネルギー使用量原単位指数



エネルギー使用量原単位指数:2006年度のエネルギー使用量原単位を100とした指数

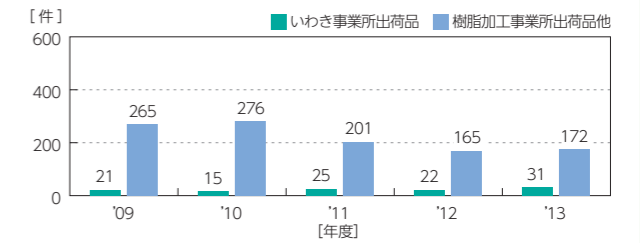
## 物流事故対策

当社の取扱い製品は危険物や毒劇物などの化学薬品からクレラップなどの日用雑貨品まで多種多様にわたり、おのこの荷姿や輸送方法が異なることから、物流事故の内容や発生原因も様々です。特にいわき事業所出荷品は危険物や毒劇物などタンクローリー輸送が中心であり、重大事故の発生が生産に与える影響は計り知れません。日頃から物流事故削減への取り組みをクレハ運輸と協働して進めてきましたが、2013年度は残念ながら車両事故や製品混入が発生しました。幸いにして大きな事故には至らなかったものの事を重く受け止め、協力会社を含めて事故発生の原因を徹底的に掘り下げることによって「抜本的対策」を策定し、事故撲滅の取り組みを進めています。更には、弊社においても本年4月に物流の企画・管理業務の機能をいわき事業所に移し、クレハ運輸を始め関係部門との連携をより強化することで協働して物流事故の再発防止に取り組んでいます。

一方、樹脂加工事業所出荷品はNEWクレラップなど段ボールケース品での輸送が中心ですが、段ボールケースが直接化粧箱として店頭へ並ぶ場合があることから、段ボールケースの破損やへこみなどの物流事故が大半を占めます。そのため、取引業者に対してドライバーへの荷扱いに対する注意喚起と教育・指導の徹底を図り、破損事故は年々減少しています。昨年度は年末の繁忙期に掛けてドライバー不足による車両手配が困難な状況と、消費税増税前の駆け込み需要による出荷量の増加、また納品先での混雑による予定外の待機などが発生したことから、納期遅延などの物流事故が通常時より多く見受けられました。

ドライバー不足の背景には構造上の問題を含んでおり、簡単には是正できない深刻な問題です。2014年度は必要車両数確保の難しさや運賃値上げが進む可能性があります。物流安定化を重視した柔軟な対応がより一層求められます。関連部門と連携し安全最優先の取り組みを進めてまいります。

## ■ 物流事故件数





## グループ各社でも積極的にRC・CSR活動を進めています。

GROUP NEWS 各社の新しい取り組み・話題を紹介します。

### 株式会社クレハ環境

ウェステックかながわは、人と社会と地球環境との調和を大切に、産業廃棄物の適正処理とサーマルリサイクルで環境保全を目指しています。

2010年4月1日より財団法人かながわ廃棄物処理事業団から施設を譲り受け、(株)クレハ環境かながわ事業所(現ウェステックかながわ)として操業をスタートしました。



発電用ボイラー

ウェステックかながわでは、焼却炉(70t/日)3基を保有しています。最大の特徴は焼却炉の廃熱を利用したサーマルリサイクルで、最大で4,800kw/hの発電能力があります。3炉中2炉の運転で、ウェステックかながわ内の全電力を補うことが可能で、余剰電力の売電も行っております。これにより廃棄物処理法の熱回収設置者認定を受けています。川崎市では最初の認定で、全国的に見ても非常に早期の認定の取得となりました。同様に経済産業省の再生可能エネルギー発電設備の認定も取得しています。

施設の見学ルートも充実しており、国内外からのお客様が見学に来社されます。「川崎市Walker」等の雑誌にも取り上げられました。

川崎市内の企業として市の取り組みへの協力も行っており、今年度は「川崎国際環境技術展2014」に参加しました。また、ウェステックかながわは、川崎市の津波警報等の発表に伴う津波避難施設にも指定されており、津波発生時には周辺の皆様の避難施設として利用されます。



ウェステックかながわ外観

### NEW FACE

### Kureha Vietnam Co., Ltd.

「豊かなクレハベトナムへ」をスローガンに、若い力で、安全で快適な職場環境の維持と品質向上に取り組んでいます。



代表取締役社長  
高橋 仁

クレハベトナムは、食品包装用のクレハロンフィルムおよびクレハロンMLフィルム・バッグの製造・販売を目的に、2008年にスタートしました。

従業員全員が、「クレハベトナムで働くことができ、幸せだ」と思えるような職場を作るために、私たちは「豊かなクレハベトナムへ」という全社目標と行動



危険予知教育

基準を掲げています。その中で、まずは安全で快適な職場環境を維持する取り組みを最優先に展開しています。緊急事態を想定した避難・防災訓練を、2013年度は4回実施しました。また危険予知の考え方を新たに導入して、人身事故発生撲滅を目指した活動を開始しました。

品質面では、ISO9001の運用を強化して、お客様に安心してご使用いただける「クレハロンブランド」にふさわしい、製品とサービスの品質向上に努めています。特に、製造技術のブラッシュアップにより、さらなる品質の向上を図り、グローバルな競争力を高めています。



本社外観

従業員とその家族との親睦を目的に、12月には職場旅行を開催して、約200人で楽しいひと時を過ごしました。

会社概要	
設立	2008年1月11日
資本金	21,900千米ドル
売上高	32,000千米ドル(2014年3月期)
従業員数	281名
本社所在地	Plot 227/3, Road 13, Amata Lp., Long Binh Ward, Bien Hoa city, Dong Nai Province Vietnam
事業内容	食品包装材料の製造、販売

### KX クレハ エクステック株式会社

コンプライアンス、情報管理、リスク管理、RC活動の推進と環境配慮型製品の積極展開に取り組んでまいります。



代表取締役社長  
松尾 修介

#### 2013年度の主な取り組み

##### 1 コーポレート・ガバナンス

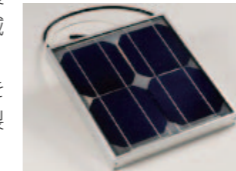
①当社は、2006年に内部統制システムの基本方針を決定し、企業理念、目指すべき方向、行動基準を定めて企業活動を展開しています。

##### 2 コンプライアンス

①クレハグループ倫理憲章に基づき、2004年に「コンプライアンス規定」を制定し、委員会を設置。また、コンプライアンス相談窓口を開設するとともに、「コンプライアンス・ハンドブック」を作成し、行動基準を明確にし、全従業員を対象に教育を実施し、啓蒙を図っています。

##### 3 品質管理・環境保全

- ①品質、環境の管理はマネジメントシステム(ISO9001、ISO14001)を活用し、継続的に改善活動を実施しています。
- ②クレーム等の対策結果検証システムを取り入れ、お客様に満足していただける品質の製品を提供できる体制を運用しています。
- ③(株)クレハが製造するふっ化ビニリデン樹脂と、当社のフィルム・シート押出技術を活用した太陽電池向け保護フィルムを開発し、二酸化炭素排出削減に貢献しています。
- ④食品包装フィルムは、フィルムの薄膜化を図り省資源に努める等、環境に優しい製品提供をしています。



太陽電池モジュール

##### 4 労働安全衛生

- ①2004年に「メンタルヘルズ規定」を制定し、相談窓口を開設しました。また、産業医による健康相談会を毎月実施しています。
- ②ゼロ災を目指し、5S・整理化活動(職場晴天活動)、安全教育、SKYT(即時・即応危険予知トレーニング)、安全パトロール等の活動を実施し、無災害時間は218万時間・人に達しました。

##### 5 廃棄物削減、省エネ関連

- ①2009年以降のリサイクル率は85%以上を維持しました。
- ②省エネ活動を推進し、エネルギー使用量の削減と二酸化炭素排出量削減に努めています。

会社概要	
設立	1982年2月10日
資本金	3億円
売上高	20億2,000万円(2014年3月期)
従業員数	78人
本社所在地	茨城県かすみがうら市宍倉5691
事業内容	樹脂加工・販売(フィルム・シート)
ホームページ	http://www.kureha-xt.co.jp/

### KGC クレハ合繊株式会社

創立50周年を迎え、新たな気持ちで統合マネジメントシステム(ISO9001、ISO14001、OHSAS18001)を展開していきます。



代表取締役社長  
陶山 浩二

#### 2013年度の主な取り組み

##### 1 環境保全活動

- ①釣糸の主力商品「シーガー」と「シーガーエース」の外箱をプラスチックケースから袋へのリニューアルと3号以下のスプールの薄型化を行い、製品廃棄物の削減を図りました。
- ②7月20日～28日に休日の振替を行い、夏季電力のピークシフトを実施し、休暇期間の最大電力を通常時の約20%に抑えることができました。
- ③プラスチック廃棄物の再資源化を図り、環境負荷の低減活動を推進しています。2013年度は、新たに屑糸の再利用を開始しました。
- ④地域社会との共生活動として、工場外周辺の美化清掃と騒音測定を実施しています。
- ⑤水質汚染管理としてBOD値の推移を月毎に確認し、排水管理を実施しています。



リニューアルした「シーガー」と「シーガーエース」



屑糸粉砕機の安全審査風景



騒音測定(周辺住宅への影響)

##### 2 保安防災活動

- ①構内のつまづき危険箇所を抽出し、社内へ通知し注意喚起を行いました。危険箇所については随時補修を行っています。

##### 3 労働安全衛生活動

- ①事故ゼロを目指し、ヒヤリ・ハット等の労働災害リスクの低減活動を継続して推進しています。
- ②2013年度の労働災害(4日以上休業)は1件でした。
- ③作業環境測定(WBGT指標)を活用し、熱中症予防への取り組みを実施しました。
- ④新規設備稼働前に設備安全審査にてリスクアセスメント評価を行い、不安全箇所の改善を実施しました。

##### 4 品質保証活動

- ①更なる顧客満足度の向上を目指し、定量的な指標値を設けて管理しています。
- ②不具合が発生した時、現場での検証確認により真の原因追求と是正効果の確認を行い、再発防止活動に繋がっています。

会社概要	
設立	1963年4月1日
資本金	1億2,000万円
売上高	36億円(2014年3月期)
従業員数	108名
本社所在地	栃木県下都賀郡壬生町元町1-63
事業内容	樹脂加工・販売(原糸、繊維製品、成形品)
ホームページ	http://www.kureha-gohsen.co.jp/

## クレハ運輸株式会社

「輸送の安全と信頼」を事業の基本理念として物流サービスの向上を目指し、顧客企業様との共栄に努めています。



代表取締役社長  
蛭田 宣行

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 物流安全・品質管理

- ①「安全最優先」の考えに基づき、事故ゼロを目指し、全社的な安全および物流品質向上の施策・活動を実施しています。
- ②グループ会社、協力会社の安全監査を実施しました。
- ③クレハ技能研修センターでの安全研修を行いました。

#### 2 環境保全

- ①2007年にISO14001の認証を取得し、環境保全活動を推進しています。
- ②省エネ訓練講習会の実施、および、デジタルタコグラフやドライブレコーダーの導入によって、燃費向上、二酸化炭素排出削減に努めました。
- ③国土交通省が推進している運輸安全管理システムシステムの導入準備を進めています。



安全研修でのKYT(危険予知トレーニング) 延べ実施回数: 14回 参加者数: 306名

#### 3 保安防災

- ①安全パトロールや総合防災訓練を実施し、保安防災に努めました。
- ②緊急時および災害時を想定した、軽油漏洩防止訓練・通報訓練を実施しました。



安全パトロール

#### 4 地域社会活動への参加

- ①勿来海岸や蛭田川などの清掃活動に積極的に参加しています。
- ②地域安全のために一般道路での安全パトロールを行いました。



軽油漏洩防止訓練

会社概要	
設立	1962年8月25日
資本金	3億円
売上高	67億円(2014年3月期)
従業員数	171名
本社所在地	福島県いわき市錦町落合69
事業内容	運送業・倉庫業
ホームページ	http://www.kure-un.co.jp/

## クレハ錦建設株式会社

品質・環境・安全の向上を目指し、全員参加によるRC活動をさらに推進してまいります。



代表取締役社長  
國井 英一

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 CSR活動

- ①クレハグループのレスポンシブル・ケア方針のもと、品質・環境・安全の向上を目指し、全員参加によるRC活動を進めています。また、オールクレハRC協議会の一員としてグループ各社と共にコンプライアンスの実践に努め、本活動を推進しています。

#### 2 環境保全

- ①廃棄物の発生抑制と資源の適正管理を基本とした3Rの推進、ゼロエミッション活動を行いました。
- ②環境負荷低減推進のため、クールビズ活動(6月～10月)およびウォームビズ活動(11月～3月)を積極的に行いました。

#### 3 保安防災・労働安全

- ①東日本大震災時の対応状況を総括して保安防災対応策へと繋げるため、避難訓練および安否確認訓練を実施しました。
- ②ゼロ災を目指して、建設業労働安全衛生マネジメントシステム(COHSMS)およびクレハ錦建設安全衛生協議会による災害防止活動に取り組み、専門工事業者と一体となって現場管理能力を向上する活動を推進しました。さらには、工事現場における安全衛生対策とリスクアセスメントKYの確実な実施等、災害防止に努めました。



第36回安全衛生大会

#### 4 地域社会との共生・交流

- ①クレハグループによるCSR地域対話集會に参加して地域社会のご意見を経営に反映させました。
- ②地元の高校生を受け入れて、職場体験・現場実習教育に協力しました。
- ③道路美化運動、清掃ボランティア等の地域行事へ積極的に参加し交流を深めました。



いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動

会社概要	
設立	1956年3月10日
資本金	3億7,000万円
売上高	148億円(2014年3月期)
従業員数	207名
本社所在地	福島県いわき市錦町綾ノ町16
事業内容	建設業
ホームページ	http://www.kurehanishiki.co.jp/

## 株式会社クレハエンジニアリング

地域社会に信頼される企業として独自の品質・環境方針を定め、全員参加による仕事への取り組みを実践しています。



代表取締役社長  
紫垣 由城

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 環境保護・品質管理

- ①ISO14001およびISO9001を機軸とする複合マネジメントシステム運営において環境、品質、その他の各方針に基づく目標を設定しました。
- ②高品質で環境負荷の低いプラント製品・工事・サービスを提供すべく、顧客満足の向上に取り組みました。

#### 2 労働安全衛生

- ①元請事業所として、協力会社を含む全従業員の安全をより確実なものにするため、2012年度より独自の安全衛生マネジメントシステムを制定、運用を開始し、2013年度に見直し改訂をしました。
- ②リスクアセスメントおよび始業前RKY(リスク危険予知)の充実と実行およびいわき事業所安全ルールに基づいた活動で事故防止を図りました。
- ③安全衛生委員会やクレハ安全衛生協議会、ならびに協力会社と組織しているクレハエンジニアリング安全協議会を通じて、情報の共有化とコミュニケーションを図りました。



安全パトロール



安全集會

#### 3 地域との共生/清掃ボランティア

- ①年2回、「いわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動」に参加し、会社に隣接する東側の市道と北側の県道路路沿いを中心に、除草、ゴミ拾い、側溝掃除などの美化活動を行いました。



会社周辺の清掃活動

会社概要	
設立	1972年10月2日
資本金	2億4,000万円
売上高	66億円(2014年3月期)
従業員数	58名(2014年7月現在)
本社所在地	福島県いわき市錦町落合135
事業内容	プラント建設、設備メンテナンス業務
ホームページ	http://www.kureha-eng.co.jp/

## 株式会社クレハ環境

これからも、地域に根ざし、人と社会そして地球環境との調和を大切にする会社を目指してまいります。



代表取締役社長  
谷口 伸幸

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 保安防災(リスクアセスメント)

- ①リスクアセスメント教育を全従業員を対象に実施しました。リスクアセスメントとは、危険や有害性のある場所や作業(ハザード)を特定し、リスクを低減する、または無くす取り組みです。優先度の高い課題から順に対策を実施しています。

#### 2 総合防災訓練

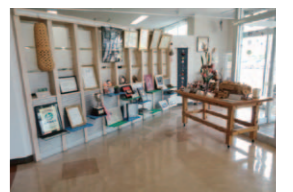
- ①今年度も地元勿来消防署との共同で総合防災訓練を実施しました。また、その様子を地域の役員の皆様にご視察いただきました。



平成25年度総合防災訓練

#### 3 地域交流・環境美化

- ①毎年、草刈りや水路清掃の他、様々なボランティア活動を通して環境美化活動に取り組んでいます。
- ②本社に隣接する公園「いこいの広場」と本社ロビーを一般に開放しています。本社ロビーには、地域の皆様からお借りした作品約90点が展示されています。



地域の皆様の作品展示

#### 4 対話集會

- ①第11回 CSR 地域対話集會にクレハグループの一員として参加しました。発表を通じて、地域への情報発信を行いました。

#### 5 情報公開

- ①当社ホームページにて、情報公開を行っております。施設の維持管理に関する情報として、廃棄物の処理量等の情報を毎月更新しています。

会社概要	
設立	1971年12月1日
資本金	2億4,000万円
売上高	92億7,000万円(2014年3月期)
従業員数	329名
本社所在地	福島県いわき市錦町四反田30番地
事業内容	環境事業
ホームページ	http://www.kurekan.co.jp/

## KST 株式会社クレハ分析センター

高い分析評価技術で、生活環境を守り、人々の健康で豊かな生活に貢献する企業を目指し、「品質と信頼」でお応えしてまいります。



代表取締役社長  
吉元 恵一

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 マネジメントシステム

①(株)クレハいわき事業所の管理単位としてISO9001、ISO14001、OHSAS18001の認証を受けています。

#### 2 労働安全衛生

- ①年2回作業環境測定士による作業環境の自主測定を行っています。
- ②有機溶剤や特化物取扱い作業時の安全性を確認するとともに薬品の危険性についての安全教育を行いました。
- ③リスクアセスメントを活用し、従業員の安全意識を向上させ、事故防止に取り組みました。

#### 3 保安防災・品質管理

- ①社内防災訓練の実施および(株)クレハいわき事業所の総合防災訓練への参加を通じ、緊急時に備えました。また、非常時備品の整備を進めました。
- ②外部講習会や精度管理事業に参加し、分析技術と精度管理の向上に努めました。
- ③品質事故事例報告会を開き、類似品質事故の防止を図りました。社内での品質内部監査を継続実施しました。

#### 4 省エネ

- ①新たな西日対策として、対象の2階測定室の窓に従来のブラインドに加え養生シートを貼り付け、減光・減熱を図り、省エネに取り組みました。



ドラフトの風速測定



省エネ対策 安価養生シートの利用

会社概要	
設立	1990年11月14日
資本金	5,000万円
売上高	14億100万円(2014年3月期)
従業員数	121名
本社所在地	福島県いわき市錦町落合16
事業内容	製品等検査および環境・理化学分析、医薬関連分析
ホームページ	http://www.kureha-bunseki.co.jp/

## R レジナス化成株式会社

いわき工場と東広島工場が一体となって、「安全・環境・品質」の向上に取り組んでいます。



代表取締役社長  
高山 幸義

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 マネジメントシステム

- ①品質、環境に関するマネジメントシステム (ISO9001、ISO14001) を活用し、継続的な改善を行っています。
- ②東広島工場への拡大審査が終了し、いわき工場と同様のシステムで運営されています。

#### 2 保安防災

- ①10月23日を防災の日と定め、毎年自主訓練を行っています。
- ②いわき市自衛消防操法競技会の見学によって優先行動順位等を勉強し、訓練の参考にするとともに等工夫をしながら保安力向上を図りました。

#### 3 労働安全衛生

- ①2ヵ月に一度の安全パトロールを実施し、安全衛生委員会では活発な意見を交わしました。従業員全員の安全意識の上に無災害が達成できることを第一に考え取り組んでいます。

#### 4 環境

- ①従業員教育に取り組み、産業廃棄物の発生量を、昨年度比25%削減しました。

#### 5 製品安全

- ①電気・電子業界の各お客様に対するグリーン調達基準への適応、また、法改正に伴う製品SDSの逐次改訂を的確に対応しました。

#### 6 リスク管理

- ①2013年3月の東広島工場操業開始に伴い、新たなBCP計画を構築し、緊急時のリスク対応を整えました。



防災訓練 訓練前の指示



防災訓練 負傷者の手当

会社概要	
設立	1972年10月18日
資本金	8,000万円
売上高	20億600万円(2014年3月期)
従業員数	66名
本社所在地	東京都中央区日本橋堀留町1-2-10 イトピア日本橋SAビル
事業内容	エポキシ樹脂を中心とした接着剤の製造、販売
ホームページ	http://www.kureha-trading.co.jp/

## EXTRON クレハエクストロン株式会社

(株)クレファインの吸収合併によって、さらに多様なニーズにお応えし、お客様から信頼されるパートナーを目指しております。



代表取締役社長  
西畑 直光

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 活動全般

- ①日本で初めて切削加工用樹脂素材を商業化し、汎用樹脂から高性能樹脂まで幅広い素材製品を製造販売しております。2014年4月1日付けで(株)クレファインを吸収合併致しました。
- ②クレハグループ倫理憲章とRC方針に則り様々な活動を推進しております。RC活動についてはISO9001とISO14001を基に品質向上ならびに環境保全活動に取り組んでおります。
- ③大田区産業振興協会主催で大田区より「人に優しい・まちに優しい『優工場』」に認定され4年が経過しましたが、地域に密着し世界に貢献できる活動と技術の提供を継続しております。

#### 2 労働安全衛生

- ①危険作業洗い出しのため、リスクアセスメントを実施しました。

#### 3 環境保全

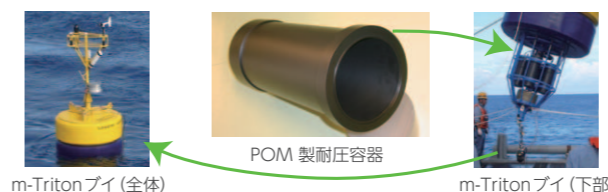
- ①東京都の省エネ診断を受けながら節電、省エネに加え廃棄物削減を進めております。
- ②近隣工業団地の環境整備活動を中心に地域社会活動に積極的に参加しております。

#### 4 環境に優しい商品の提供

- ①太陽光、風力発電、燃料電池、HEVなどの地球温暖化対策関連商品の開発に顧客と一体となり開発を推進しております。

##### 《商品例》

海洋パイ容器 (資料提供：独立法人海洋研究開発機構)  
地球温暖化監視に設置されているm-Triton海洋パイに当社のPOM切削品が使用されています。軽量で貝などが付着しにくく剥がれやすい地球環境に優しい商品です。



m-Tritonパイ (全体)

POM 製耐圧容器

m-Tritonパイ (下部)

会社概要	
設立	1964年8月19日
資本金	8,500万円
売上高	19億円(両社合計2014年3月期)
従業員数	60名(合併後)
本社所在地	東京都大田区昭和島2-4-4
事業内容	樹脂加工・成形品・ESDコンパウンド販売
ホームページ	http://www.kureha-extron.co.jp/

## Krehalon Industrie B.V.

ISO9001、ISO14001に加え、新たにISO26000を活用したCSR活動を進めています。



取締役社長  
Henk Boersma

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 マネジメントシステム

- ①当社は1998年にISO9001の認証を取得し、2000年にはISO14001の認証を取得しました。当社のCSR活動は、この2つのISO規格を基に品質向上ならびに環境保全活動に取り組む中で、基本的な活動を実施しています。

#### 2 ISO26000

- ①2013年12月に、CSR活動の普及、発展を目指して合成ゴムやプラスチック等の製造販売会社470社が加盟するNRK (Federatie Nederlandse Rubber- en Kunststoffindustrie) が推進しているプロジェクトに参加することを決定しました。NRKプロジェクトは企業が合同してISO26000に基づく経営を展開していくという取り組みであり、品質向上、環境保全に留まらずより広いCSR活動の普及を目指すものです。

#### 3 環境保全

- ①産業廃棄物の削減に努めてきた結果、2013年度のリサイクル率は、100%になりました。
- ②環境に配慮した食品包装材料の提供に努めています。

##### 《商品例》

当社の自動包装システム向けの多層収縮フィルムは、収縮バッグと比較して、お客様のプラスチック使用量削減に寄与し、サステナビリティに貢献する製品です。



Krehalon Industrie B.V. 本社工場



チーズ包装用  
クレハロンFSフィルム

会社概要	
設立	1973年10月1日
資本金	2,722,000ユーロ
売上高	42,741,000ユーロ(2013年12月期)
従業員数	203名
本社所在地	Londenstraat 10, 7418 EE Deventer, The Netherlands
事業内容	樹脂加工・販売(食品包装材)
ホームページ	http://www.krehalon.com/

## 上海呉羽化学有限公司

品質向上、環境保全はもとより、グループの基準に沿った行動基準で、コンプライアンスの啓蒙・教育を推進しています。



董事・総経理  
岩本 茂樹

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 コンプライアンス

①2013年に発足した中国のクレハグループコンプライアンス委員会で作成したコンプライアンス行動基準書に基づき、社員へ啓蒙・教育活動を定期的実施しています。

#### 2 品質保証

①顧客満足度を引き上げて行くことを目標とし、お客様からの問い合わせに迅速に対応することを心がけています。  
②ISO9001に沿って、品質管理技術の維持と向上を進めています。

#### 3 環境保全

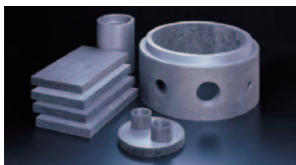
①関係する国際公約、国家法規を遵守することを誓うとともに、環境保全に関する情報入手に積極的に取り組み、ISO14001に沿って、より環境に優しい物づくりへの改善に日頃から取り組んでいます。  
②エネルギー削減に積極的に取り組むため社内省エネ委員会を設置し、活動を開始しました。

#### 4 保安防災に対する取り組み

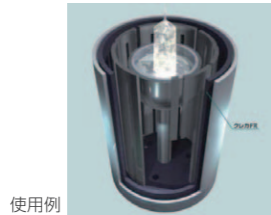
①設備保全、5S 活動、防災訓練などを通じて、事故や災害が発生しにくい職場環境形成に努めています。  
②従業員一人ひとりにとって快適な職場であるかを、自問自答しながら自助改善の精神で取り組んでいます。

#### 《商品例》

当社の主力製品はピッチ系炭素繊維製の成形断熱材フレカFRです。被焼成物に高品質が要求される1000℃～2500℃の高温炉の断熱材として、セラミックや金属、LED用サファイア焼結、電気自動車用磁性材料の熱処理や、太陽光発電パネルや半導体用のシリコン結晶の製造等に使用されています。



フレカFR



使用例

会社概要	
設立	2003年4月30日
資本金	12,900千米ドル
売上高	52百万円(2013年12月期)
従業員数	74名
本社所在地	上海市嘉定工業区興栄路1585号
事業内容	炭素繊維製耐熱材料の製造・販売
ホームページ	http://www.kureha.sh/

## Kureha Advanced Materials LLC

職場環境のモニタリング、バリューストリームマップなどを活用し、安全で環境に優しく、生産性の高い職場づくりを推進しています。



取締役社長  
Leeland Pfeifer

### 2013年度の主な取り組み

#### 1 環境保全

①環境を守り、地域社会との共生を図るため、植物や土壌などが本来持っている性質をうまく利用して、水質浄化させる自然共生型環境管理技術(バイオリテンション)を持つ池を設置しました。この池は水質浄化だけでなく、植物の生命力が活気にあふれ、花が満開となる季節には人目を引く景色を呈します。

#### 2 労働安全衛生

①保険会社認定の労働安全衛生チームは、毎月会合を持ち、職場環境をモニタリングすることにより、安全で環境に優しい職場づくりを推進しています。  
②従業員の呼吸器官の健康をしっかりと保つため、工場内各所での大気環境測定を四半期毎に継続的に行っています。  
③聴覚に影響を及ぼす可能性のある場所を特定するため、工場内各所での騒音レベル調査を実施しています。  
④従業員の安全や生産性を高め、製造工程の合理化や利益の改善をもたらすバリューストリームマップ(製品を原料から顧客に届けるまでのすべての工程における物と情報の流れ図)を完成させました。



ノイズレベルモニター



バイオリテンション

#### 《商品例》

当社の主力製品はクレハの炭素繊維を使用した断熱材です。半導体およびソーラー産業における単結晶・多結晶シリコンインゴット製造炉、人工サファイアインゴット製造炉、さらに自動車や航空機を含む様々な産業用途の金属やセラミックを焼結する熱処理炉で使用されています。

会社概要	
設立	2007年1月1日
資本金	490.2千米ドル
売上高	3,132千米ドル(2013年12月期)
従業員数	9名
本社所在地	10 Acee Drive, Natrona Heights, PA, 15065 USA
事業内容	炭素繊維製耐熱材料の製造
ホームページ	http://www.kureha.com/

### KREHA エクステック株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2007年3月
品質 (ISO9001)	1999年2月

項目	単位	2009	2010	2011	2012	2013
エネルギー使用量(原油換算)	kL	1,142	871	814	683	760
エネルギー使用量原単位(対売上)	kL/百万円	0.77	0.40	0.42	0.43	0.38
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	584	369	341	335	423
労働災害発生件数	件	0	0	0	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	165	163	146	137	138
休業度数率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
物流事故件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	267	378	314	264	242
リサイクル量	トン	238	349	297	247	209
リサイクル率	%	89	92	95	94	86
埋立量	トン	29	29	17	17	33

### KGC クレハ合織株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2005年3月
品質 (ISO9001)	2003年4月
労働安全衛生 (OHSAS18001)	2006年6月

項目	単位	2009	2010	2011	2012	2013
エネルギー使用量(原油換算)	kL	926	1,068	1,024	949	969
エネルギー使用量原単位(対売上)	kL/百万円	0.45	0.42	0.34	0.27	0.26
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	596	530	503	470	558
労働災害発生件数	件	0	0	0	0	1
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	195	231	229	206	228
休業度数率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	4.39
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.19
設備災害発生件数	件	2	0	0	1	1
廃棄物発生量	トン	224	178	218	297	182
リサイクル量	トン	179	134	164	228	141
リサイクル率	%	80	75	75	77	78
埋立量	トン	45	45	55	70	40
PRTR 制度届出物質数	件	1	0	0	0	0
大気排出量	kg	0	0	0	0	0
外部移動量	kg	54	0	0	0	0

### クレハ運輸株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2007年3月
品質 (ISO9001)	2001年8月

項目	単位	2009	2010	2011	2012	2013
エネルギー使用量(原油換算)	kL	2,661	2,554	2,626	2,495	2,543
エネルギー使用量原単位(対売上)	kL/百万円	0.25	0.23	0.25	0.24	0.25
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	1,873	1,889	1,937	1,871	1,901
労働災害発生件数	件	4	0	1	0	4
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	762	756	682	674	664
休業度数率	—	5.25	0.00	1.47	0.00	4.52
休業災害強度率	—	0.12	0.00	0.24	0.00	0.02
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
物流事故件数	件	46	28	42	48	42
廃棄物発生量	トン	41	40	42	48	99
リサイクル量	トン	36	35	35	38	45
リサイクル率	%	87	87	83	79	45
埋立量	トン	0	0	0	0	0
PRTR 制度届出物質数	件	4	4	4	4	4
大気排出量	kg	36	39	34	35	35
外部移動量	kg	0	0	0	0	0

\*集計範囲：クレハ運輸グループ

### クレハ錦建設株式会社

認証取得マネジメントシステム	取得年月
環境 (ISO14001)	2005年7月
品質 (ISO9001)	2000年12月
建設業労働安全衛生 (COHSMS)	2012年3月

項目	単位	2009	2010	2011	2012	2013
エネルギー使用量(原油換算)	kL	87	90	87	87	82
エネルギー使用量原単位(対売上)	kL/百万円	0.007	0.008	0.006	0.006	0.006
二酸化炭素排出量(炭素換算)	トン	43	44	37	37	35
労働災害発生件数	件	0	0	0	0	0
死亡災害発生件数	件	0	0	0	0	0
延べ労働時間	千時間	663	636	610	593	563
休業度数率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
休業災害強度率	—	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
設備災害発生件数	件	0	0	0	0	0
廃棄物発生量	トン	7,532	10,130	21,087	21,606	26,202
リサイクル量	トン	6,370	8,429	18,482	19,331	23,005
リサイクル率	%	85	83	88	90	88
埋立量	トン	1,162	1,701	2,606	2,275	3,197

